

# 感染症発生動向調査事業報告書

—令和2（2020）年版—

山梨県感染症情報センター



## 目 次

I	事業概要	
1	感染症発生動向調査事業	1
2	対象感染症	2
3	地域区分と定点医療機関数	4
II	患者発生状況	
1	全数把握対象感染症	5
2	定点把握対象感染症	5
2-1	インフルエンザ定点から報告された感染症	7
	○インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	7
2-2	小児科定点から報告された感染症	9
	○RSウイルス感染症	10
	○咽頭結膜熱	11
	○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12
	○感染性胃腸炎	13
	○水痘	14
	○手足口病	15
	○伝染性紅斑	16
	○突発性発しん	17
	○ヘルパンギーナ	18
	○流行性耳下腺炎	19
2-3	眼科定点から報告された感染症	20
	○急性出血性結膜炎	20
	○流行性角結膜炎	21
2-4	性感染症定点から報告された感染症	22
	○性器クラミジア感染症	22
	○性器ヘルペスウイルス感染症	23
	○尖圭コンジローマ	24
	○淋菌感染症	25
2-5	基幹定点から報告された感染症	26
	○細菌性髄膜炎	27
	○無菌性髄膜炎	28
	○マイコプラズマ肺炎	29

○ クラミジア肺炎（オウム病を除く）	30
○ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）	31
○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	32
○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	33
○ 薬剤耐性緑膿菌感染症	34
Ⅲ 病原微生物検出状況	
1 ウイルス検出状況	35
2 細菌検出状況	36
Ⅳ 参考資料	
1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧	37
2 全数把握対象感染症の報告数	39
2-1 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の 改正に伴う変更の経緯	40
3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数	41
4 前年（令和元年）との定点当たり報告数の比較	42
5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移	43
6 感染症発生動向調査の調査報告週対応表	44

# I 事業概要



## 1 感染症発生動向調査事業

感染症発生動向調査は、昭和 56 年から開始され、平成 11 年 4 月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下、「法」という）の施行に伴う施策として位置づけられた調査である。本調査は、感染症の発生情報の把握と分析を行い、その結果を住民や医療機関へ迅速に情報提供・公開することで、感染症の発生やまん延の防止を目的として実施されている。

県（「山梨県感染症情報センター」）では、本調査事業対象となる感染症について、週・月単位で収集・報告し、国から還元された県内状況を把握、また、行政検査で患者等から検出した病原微生物検出状況も併せて県ホームページに公表して、広く県民や医療機関へ情報提供を行っている。

令和 2 年 2 月、新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）が新たに指定感染症に位置づけられた。本県においては、同年 3 月に初めて患者が報告されて以降、多数の患者報告や流行が認められていたが、本感染症発生状況については別途、県公表資料を参照願いたい。

なお、平成 31 年 4 月に甲府市の中核市移行に伴い、甲府市保健所が設置されている。市内の感染症発生状況については甲府市が感染症の動向の把握や情報提供を行っているが、本報告書には、県感染症情報センターとして甲府市分も併せて掲載する。

## 2 対象感染症

令和2年2月7日現在、全数把握対象90疾病、定点把握対象25疾病及び、法第14条1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症を調査対象としている。

### 全数把握対象(90疾病)

	対象疾病
一類感染症(7疾病)	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、 (4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
二類感染症(7疾病)	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。)、(12)中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。)、(13)鳥インフルエンザ(H5N1)、(14)鳥インフルエンザ(H7N9)
三類感染症(5疾病)	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス
四類感染症(44疾病)	(20)E型肝炎、(21)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)、(22)A型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサヌル森林病、(29)Q熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)ジカウイルス感染症 (34)重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)Bウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兔病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱
五類感染症(24疾病)	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)、(68)急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クローンフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)



	後天性免疫不全症候群、(73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症
新型インフルエンザ等感染症 (2 疾病)	(112)新型インフルエンザ、(113)再興型インフルエンザ
指定感染症(1 疾病)	(114)新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。))であるものに限る。)

定点把握対象(25 疾病・疑似症:五類感染症及び法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症)

	対象 疾 病
小児科定点(10 疾病)	(88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(91)感染性胃腸炎、(92)水痘、(93)手足口病、(94)伝染性紅斑、(95)突発性発しん、(96)ヘルパンギーナ、(97)流行性耳下腺炎、
インフルエンザ定点(1 疾病)	(98)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)
眼科定点(2 疾病)	(99)急性出血性結膜炎、(100)流行性角結膜炎
性感染症定点(4 疾病)	(101)性器クラミジア感染症、(102)性器ヘルペスウイルス感染症、(103)尖圭コンジローマ、(104)淋菌感染症
基幹定点(8 疾病)	(91)感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)(105)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、(106)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(108)マイコプラズマ肺炎、(109)無菌性髄膜炎、(110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(111)薬剤耐性緑膿菌感染症
疑似症定点	(115) 発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

### 3 地域区分と定点医療機関数

県内の定点把握対象五類感染症を把握するため、県では、人口及び医療機関の分布を考慮し、下表の数の医療機関を患者定点若しくは、病原体定点として指定している。(医療機関名は、IV参考資料の1「感染症発生動向調査の指定届出機関一覧表」を参照)

令和2年4月1日現在

		中北	峡東	峡南	富士郷	甲府	計
患者 定 点	小児科定点	8	4	2	5	5	24
	内科定点	5	3	1	4	4	17
	インフルエンザ定点	13	7	3	9	9	41
	眼科定点	3	2	0	2	2	9
	性感染症定点	3	2	0	2	2	9
	基幹定点	3	2	1	2	2	10
	疑似症定点	1	1	1	2	2	7
病 原 体 定 点	小児科定点	0	0	0	1	2	3
	インフルエンザ定点	1	1	1	1	1	5
	眼科定点	0	0	0	0	1	1
	基幹定点	3	2	1	2	2	10

#### 【定点等説明】

患者定点：定点把握対象の五類感染症の発生状況を報告する医療機関

小児科定点：小児科を標榜し、小児科定点把握対象疾病の発生状況を報告する医療機関

内科定点：内科を標榜し、定点把握対象疾病の発生状況を報告する医療機関

インフルエンザ定点：小児科定点、内科定点の両者を合わせた医療機関

眼科定点：眼科を標榜し、眼科定点把握対象疾病の発生状況を報告する医療機関

性感染症（STD）定点：産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標榜し、性感染症定点把握対象疾病の発生状況を報告する医療機関

基幹定点：患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜し、基幹定点把握対象疾病の発生状況を報告する医療機関

疑似症定点：疑似症の発生状況を報告する医療機関

病原体定点：病原体の分離等の検査情報を収集するため、病原体検査のための検体等採取する医療機関

## Ⅱ 患者発生状況



## 1 全数把握対象感染症

山梨県及び全国における令和2年の全数把握対象感染症の報告数を「IV参考資料」の2に示した。

### 《一類感染症》

報告はなかった。

### 《二類感染症》

二類感染症7疾病のうち、結核（77例）の報告があった。

### 《三類感染症》

三類感染症5疾病のうち、腸管出血性大腸菌感染症（8例）の報告があった。

### 《四類感染症》

四類感染症44疾病のうち、E型肝炎（2例）、つづが虫病（1例）、レジオネラ症（24例）の3疾病27例の報告があった。

### 《五類感染症》

五類感染症24疾病のうち、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（5例）、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）（1例）、急性脳炎（4例）、クロイツフェルト・ヤコブ病（3例）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（1例）、後天性免疫不全症候群（8例）、侵襲性インフルエンザ菌感染症（1例）、侵襲性肺炎球菌感染症（7例）、水痘（入院例）（3例）、梅毒（6例）、播種性クリプトコックス症（1例）、破傷風（1例）、百日咳（10例）の13疾病51例の報告があった。

### 《新型インフルエンザ等感染症》

報告はなかった。

### 《指定感染症》

別途、県公表資料を参照。

## 2 定点把握対象感染症

### 《五類感染症》

山梨県および全国における令和2年の定点把握対象感染症の報告数と定点医療機関当たりの患者報告数<sup>\*1</sup>（以下、「定点当たり報告数」という）をIV参考資料の3に示した。本県で患者報告数が1,000例を超えた疾病は、インフルエンザ（4,329例）、感染性胃腸炎（2,445例）であった。定点当たり報告数が全国に比べて高かった疾病は、流行性角結膜炎（山梨県19.11、全国13.09）、性器ヘルペスウイルス感染症（山梨県12.44、全国9.17）、薬剤耐性緑膿菌感染症（山梨県0.30、全国0.24）であった。

前年（令和元年）との定点当たり報告数の比較をIV参考資料の4に示した。定点当たり報告数が前年より増加した疾病は、性器ヘルペスウイルス感染症（1.09倍）、ペニシリン耐性肺炎球菌感染

症 (1.20 倍)、薬剤耐性緑膿菌感染症 (3.00 倍) であった。

### 《疑似症》

法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症である、「発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの」の報告はなかった。

### ※ 1 : 定点医療機関当たりの患者報告数とは

山梨県が指定する医療機関（指定届出機関）から 1 週間ごとに報告される患者数を、定点医療機関数で割った値である。県内の指定届出機関の一覧はIV参考資料の 1 に掲載している。

### 注意報レベル、警報レベルについて

警報・注意報のねらいは、感染症発生動向調査における定点把握感染症のうち、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾病について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、関係者に向け、データに何らかの流行現象がみられることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起することにある。

- 警 報レベル 大きな流行が発生または継続しつづくと疑われることを指す。
- 注意報レベル 流行の発生前であれば今後 4 週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指す。

警報レベルは、保健所単位で集計した 1 週間の定点当たり報告数がある基準値(開始基準値)以上で開始し、別の基準値(終息基準値)未満で終息となる。注意報レベルは、1 週間の定点当たり報告数がある基準値以上の場合である。

警報・注意報基準値は、これまでの感染症発生動向調査データから、以下のとおり定められており、定期的に評価・見直しが行われている。

疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

令和2年4月1日現在

基準値はすべて定点当たり報告数である。注意報の「-」は対象としないことを意味する。

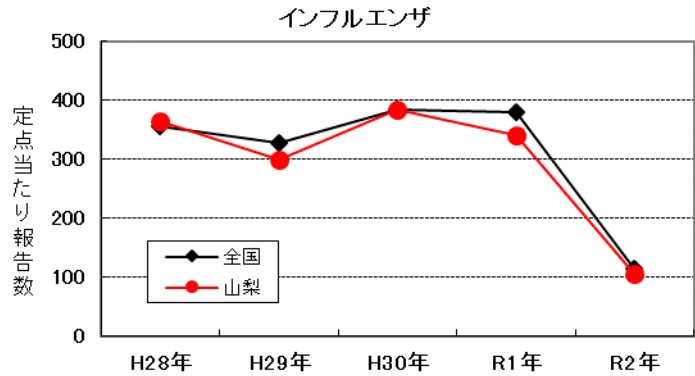
## 2-1 インフルエンザ定点から報告された感染症

県内 41 カ所のインフルエンザ定点から、対象疾病であるインフルエンザについて週報として報告される。

### ○インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

定点医療機関から 4,329 例（定点当たり報告数 105.59）の報告があり、前年 13,980 例（340.98）に比べ大幅に減少した。

最近 5 年間は全国とほぼ同様に推移している。

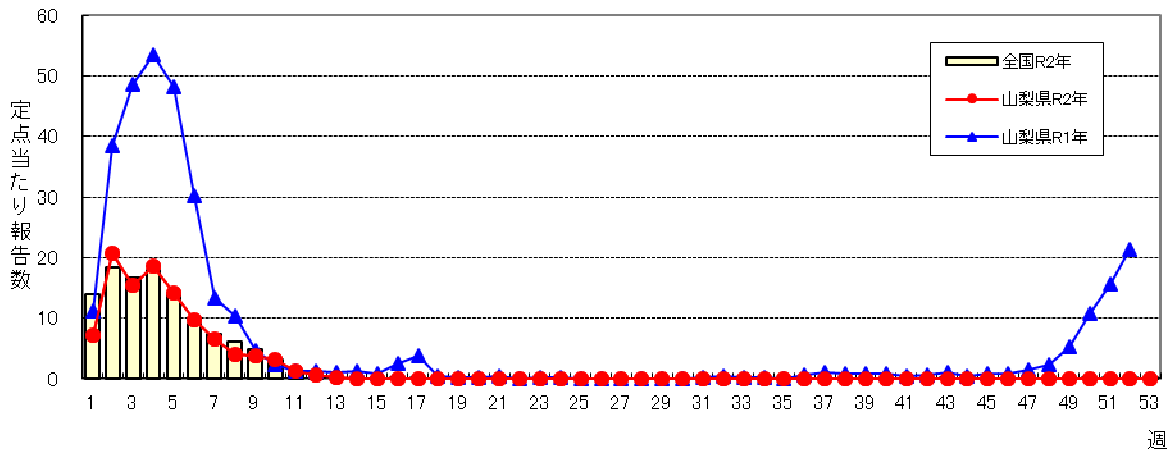


### 《週別発生状況》

2019/2020 シーズン（2019年9月から2020年8月）は令和元年第29週から継続的に患者報告があり、第43週（1.05）、第47週（1.49）に定点当たり報告数が流行開始の基準となる1.0を超えた。注意報レベル基準値（10.0）を超えたのは令和元年第49週の中北保健所管内（13.60）、警報レベル開始基準値（30.0）を超えたのは令和2年第2週の中北保健所管内（36.80）であった。その後は令和元年第52週（21.29）をピークに減少し、令和2年第12週（0.71）に1.0を下回った。

2020/2021 シーズン（2020年9月から2021年8月）は令和2年第42週に中北保健所管内で1例（0.02）の患者報告があった。年間を通じた発生状況は、全国とほぼ同様の推移であった。

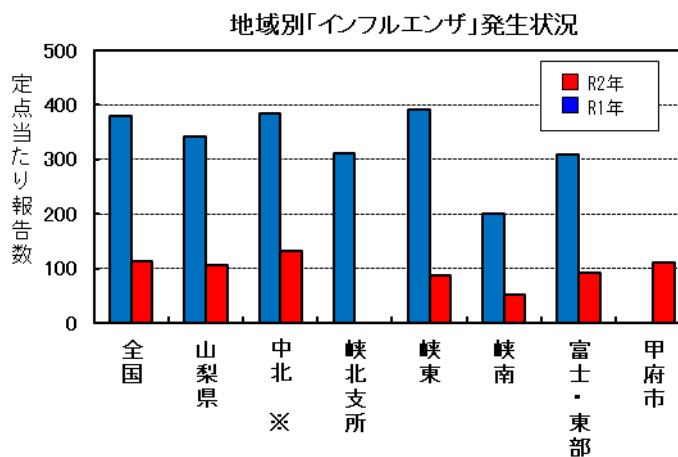
### 週別「インフルエンザ」発生状況



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、中北保健所管内※（132.92）、次いで甲府市保健所管内（111.67）であった。最も少なかったのは峡南保健所管内（51.33）であった。

全ての保健所管内で、前年よりも報告数が大幅に減少した。



※ 保健所再編により、令和元年第14週から52週の甲府市保健所分、令和2年第1週から13週の峡北支所分は、本報告書では統計上、中北保健所分を含める（以下、全ての疾病について同様とする）。



## 2-2 小児科定点から報告された感染症

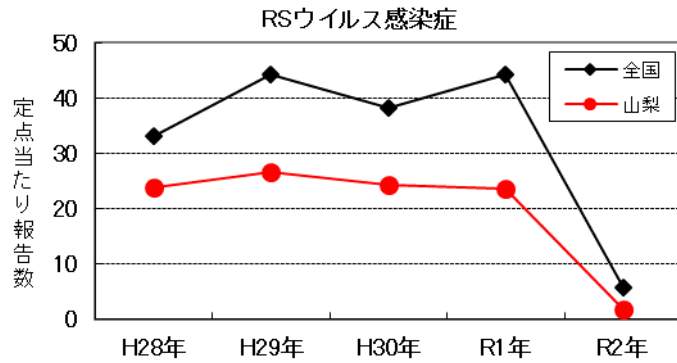
県内 24 カ所の小児科定点から、対象疾病である RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ及び流行性耳下腺炎について週報として報告される。

総報告数は 4,038 例で、前年（11,548 例）より減少した。前年と比較して報告数が増加した疾病はなかった。

## ○ RSウイルス感染症

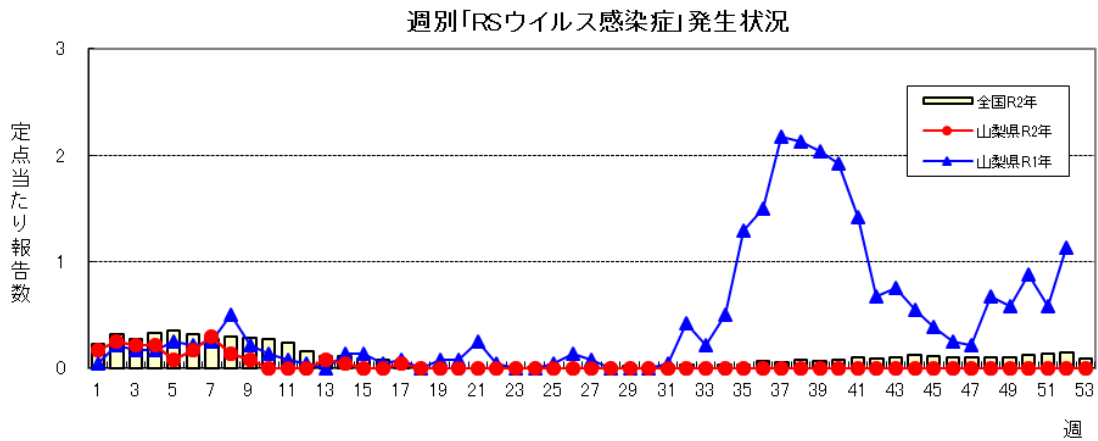
定点医療機関から 42 例（定点当たり報告数 1.75）の報告があり、前年 566 例（23.58）より大幅に減少した。

最近 5 年間は、定点報告数が全国より少ない状況で、同様に推移している。



### 《週別発生状況》

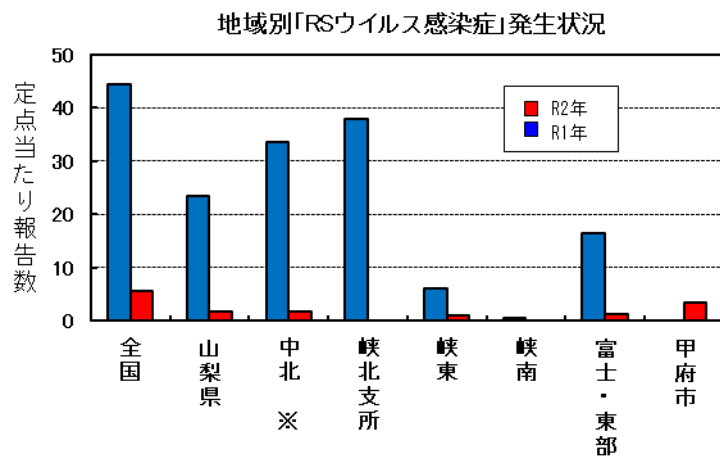
年間を通した発生状況は全国とほぼ同様の推移であった。例年、冬季にみられる患者報告数の増加はみられなかった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（3.40）であった。

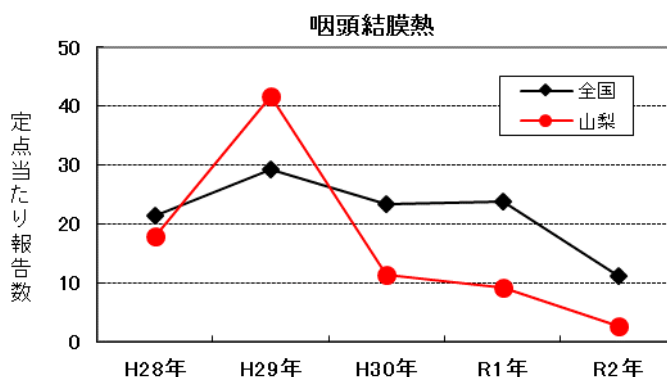
峡南保健所管内の報告は無かった。



※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

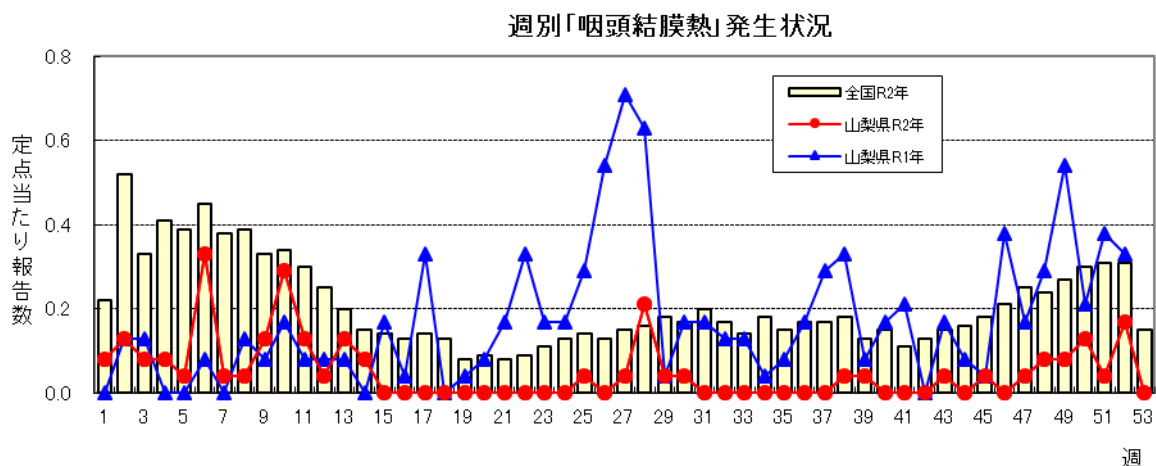
## ○ 咽頭結膜熱

定点医療機関から65例（定点当たり報告数2.71）の報告があり、前年221例（9.21）よりも減少した。



### 《週別発生状況》

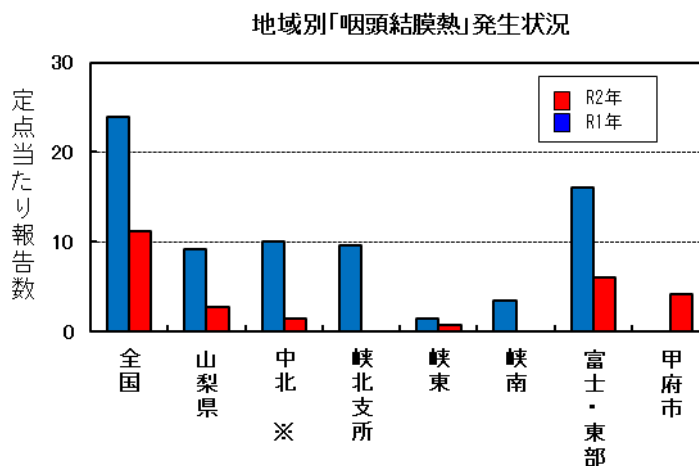
全国とほぼ同様に推移したが、大きな流行はみられなかった。患者報告数が最も多かったのは第6週（0.33）であった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（6.00）であった。

峡南保健所管内の報告は無かった。

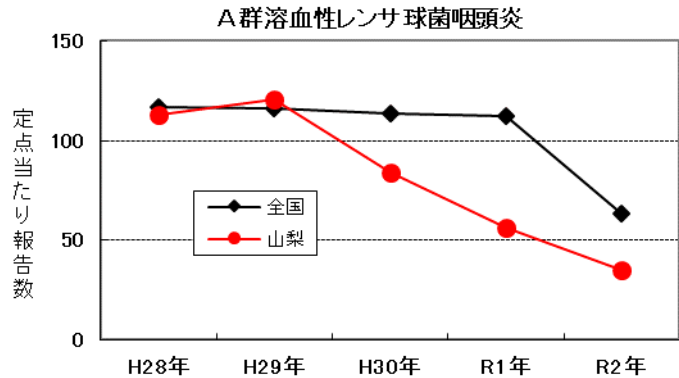


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## ○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

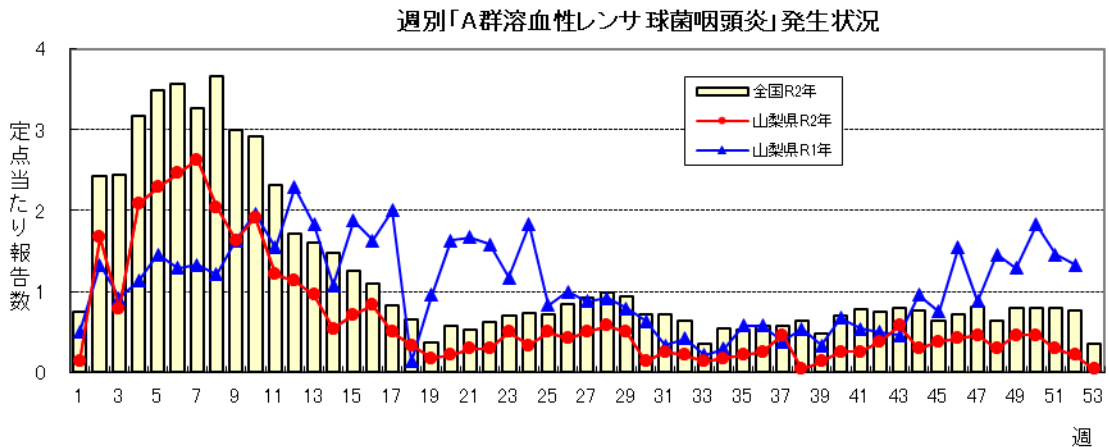
定点医療機関から836例（定点当たり報告数34.83）の報告があり、前年1,352例（56.33）よりも減少した。

近年は全国と同様に、減少傾向で推移している。



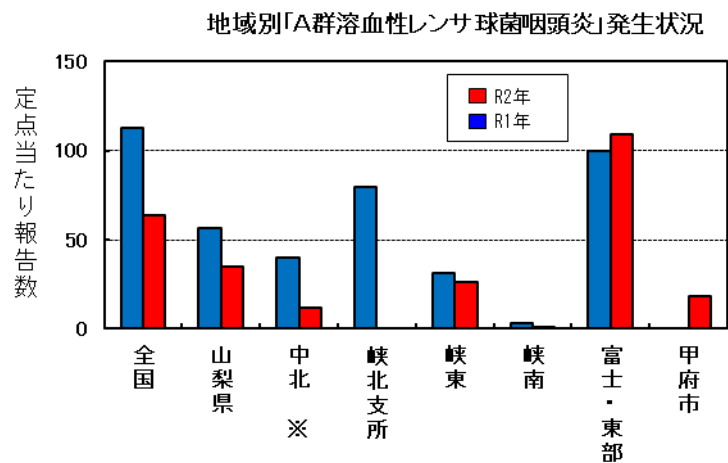
### 《週別発生状況》

定点当たり報告数は第7週(2.63)をピークに緩やかに減少した。富士・東部保健所管内では第4週に警報レベル開始基準値(8.0)以上となり、第10週まで警報レベルが継続した。年間を通して全国とほぼ同様に推移した。



### 《地域別発生状況》

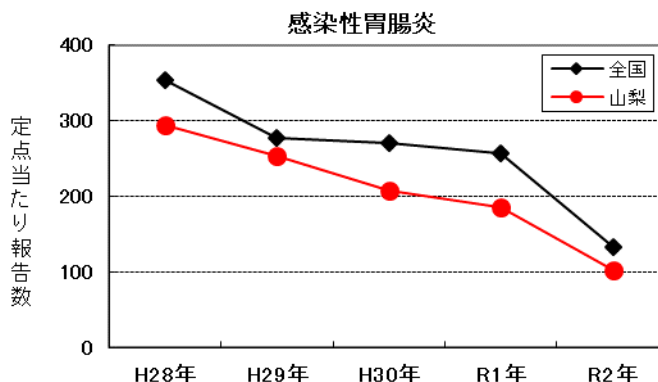
定点当たり報告数の最も多かったのは富士・東部保健所管内(109.00)で、県内報告数の半数以上を占めた。



※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

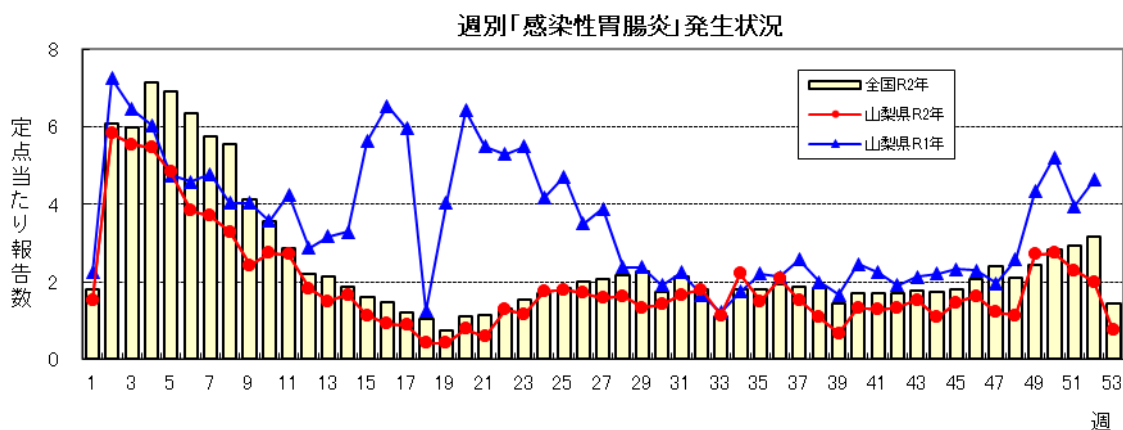
## ○ 感染性胃腸炎

定点医療機関から 2,445 例  
 (定点当たり報告数 101.88)  
 の報告があり、前年 4,467 例  
 (186.13) よりも減少した。  
 最近 5 年間は全国、本県とも  
 に減少傾向で推移している。



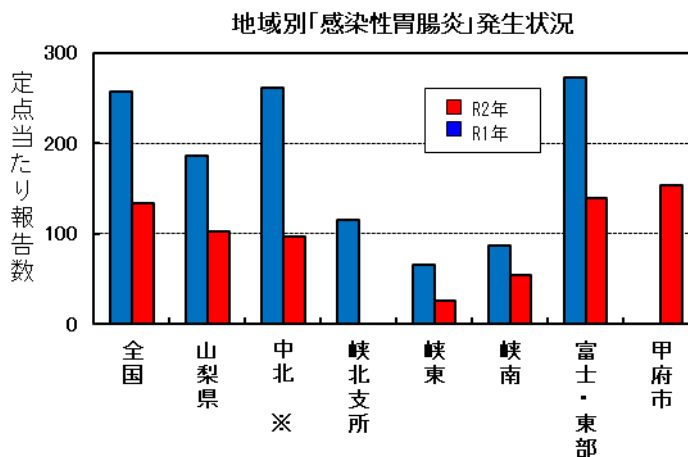
### 《週別発生状況》

定点当たり報告数は第 2 週(5.83)をピークに緩やかに減少した。年間を通して報告があり、全国とほぼ同様に推移した。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も  
 多かったのは甲府市保健所  
 管内 (154.00) であった。

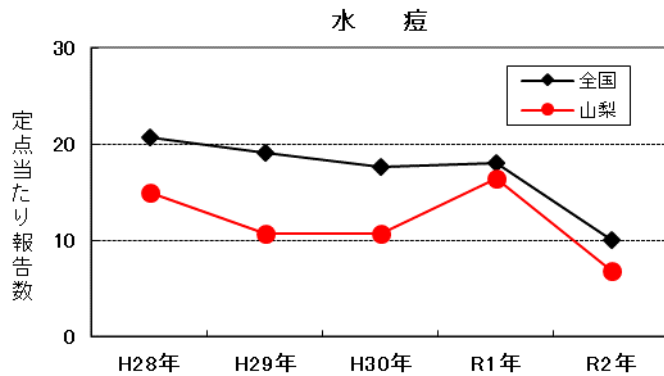


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## ○ 水痘

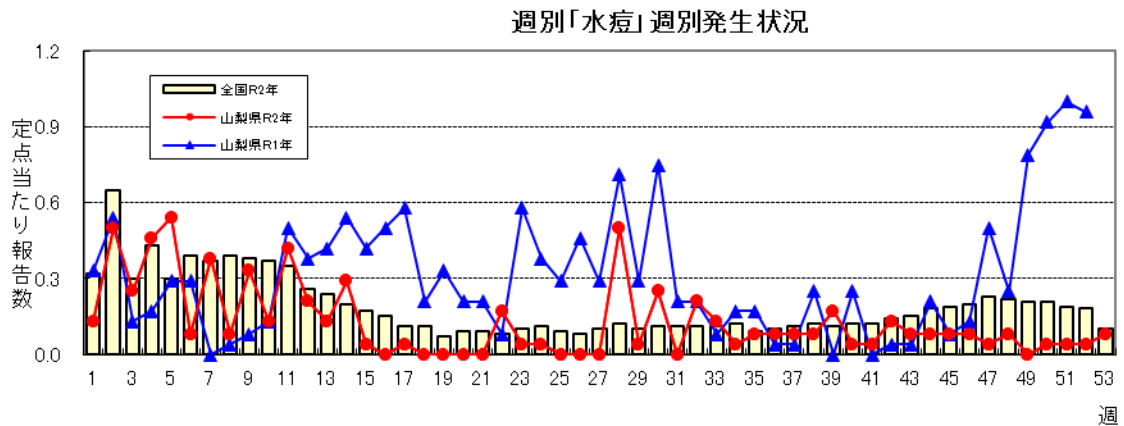
定点医療機関から 163 例（定点当たり報告数 6.79）の報告があり、前年 395 例（16.46）よりも減少した。

最近 5 年間は定点報告数が全国より少ない状況で、同様に推移している。



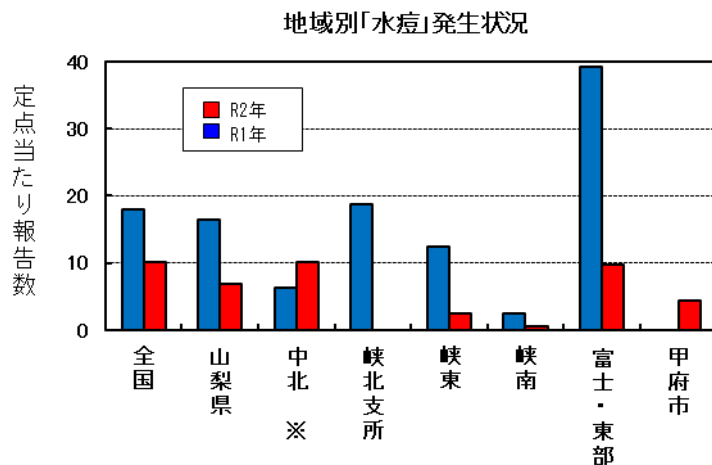
### 《週別発生状況》

年間を通した発生状況は全国とほぼ同様であったが、第 2 週から第 14 週の間には中北保健所峡北支所管内、富士・東部保健所管内で断続的に注意報レベル(1.0)を超えた。また、富士・東部保健所管内では第 28 週に警報レベル開始基準値(2.0)以上となった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、中北保健所管内※(10.13)であった。

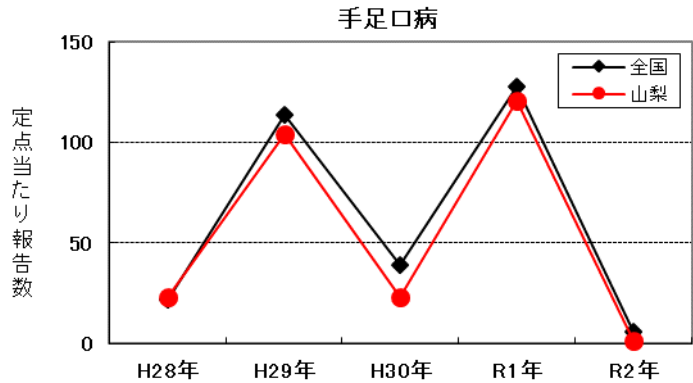


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## ○ 手足口病

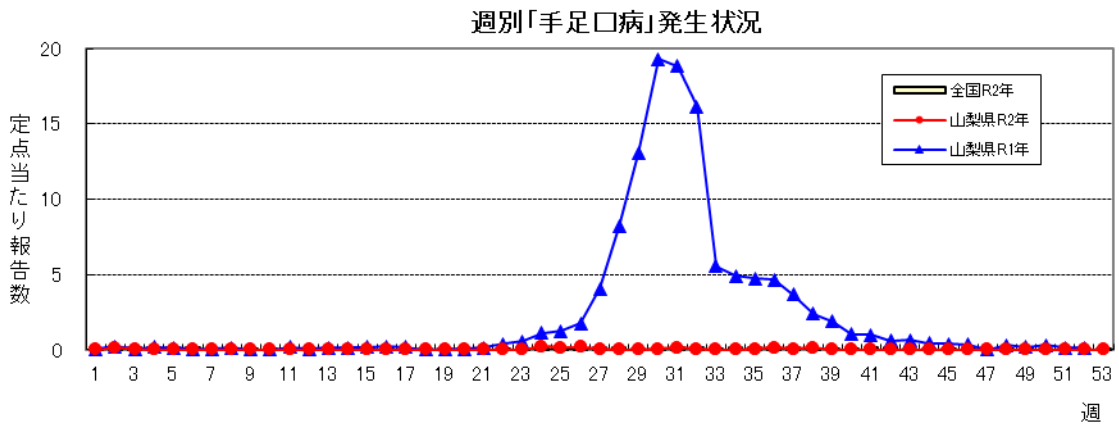
定点医療機関から 42 例（定点当たり報告数 1.75）の報告があり、前年 2,901 例（120.88）よりも減少した。

最近 5 年間は全国と同様、1 年おきに増減して推移している。



### 《週別発生状況》

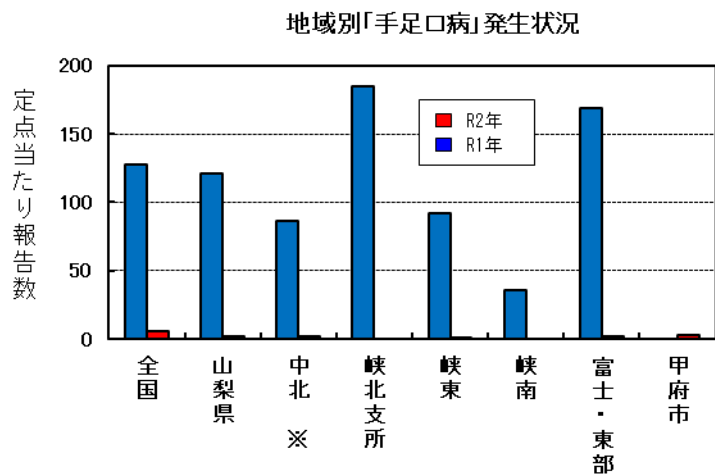
年間を通して患者報告は少なく、全国でも同様の推移であった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、甲府市保健所管内（2.60）であった。

峡南保健所管内の報告はなかった。

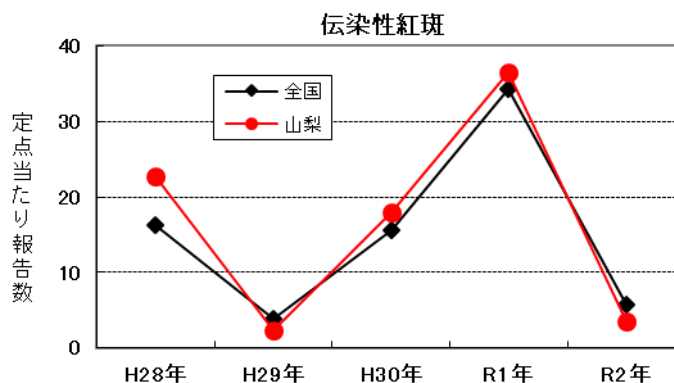


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## ○ 伝染性紅斑

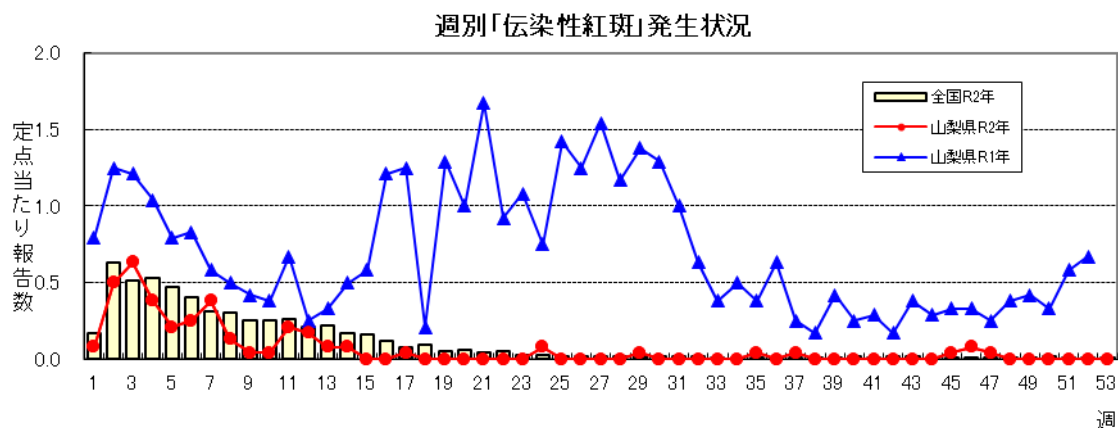
定点医療機関から 86 例（定点当たり報告数 3.58）の報告があり、前年 877 例（36.54）よりも減少した。

最近 5 年間は全国と同様に推移している。



### 《週別発生状況》

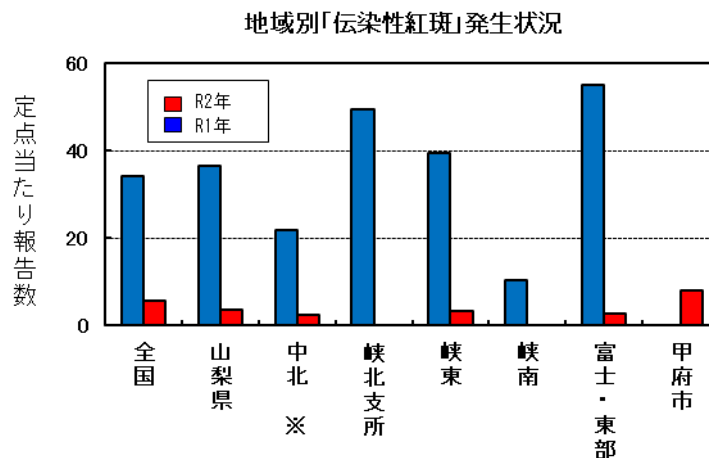
R1 年後半から続き、第 3 週(0.63)をピークとする冬季の流行がみられたが、第 15 週以降は断続的に少ない報告数で推移した。年間を通した流行状況は全国と同様であった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（8.00）であった。

峡南保健所管内の報告は無かった。



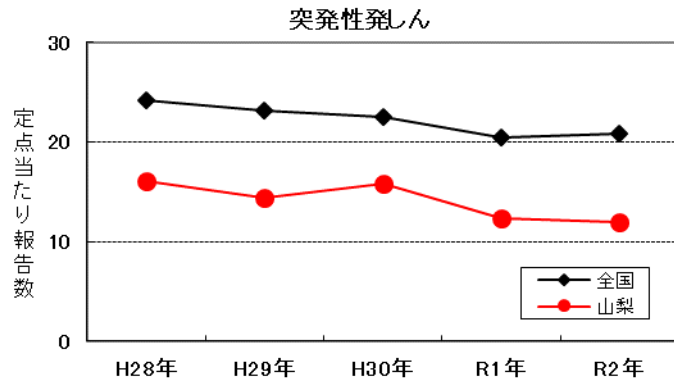
※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む



## ○ 突発性発しん

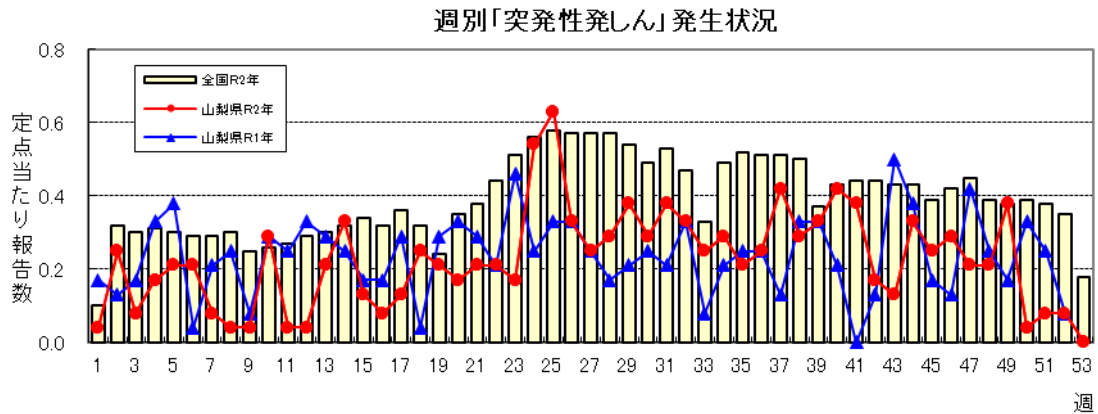
定点医療機関から 288 例（定点当たり報告数 12.00）の報告があり、前年 296 例（12.33）よりもやや減少した。

最近 5 年間は全国よりも少ない報告数で、やや減少傾向に推移している。



## 《週別発生状況》

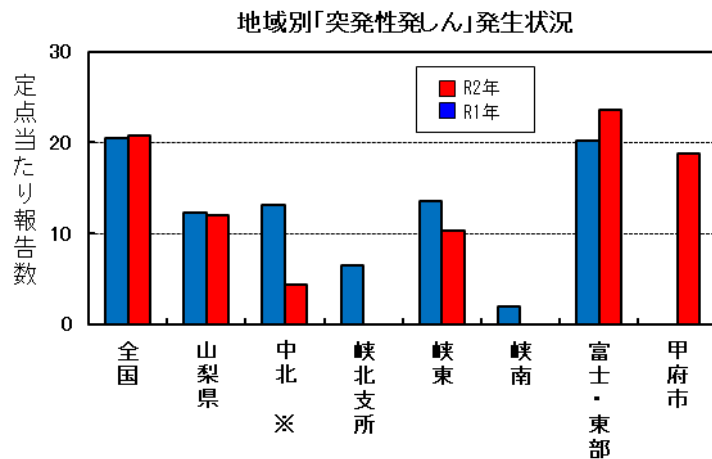
年間を通して報告があり、第 25 週(0.63)の報告数が最も多かった。全国でも第 25 週(0.58)の報告数が最も多く、同様の推移であった。



## 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内(23.60)であった。

峡南保健所管内の報告は無かった。

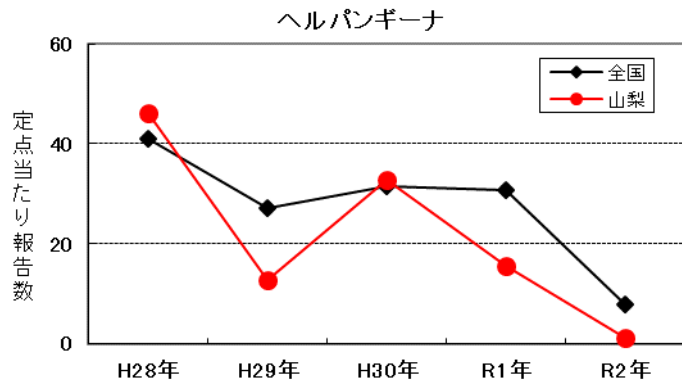


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## ○ ヘルパンギーナ

定点医療機関から 28 例（定点当たり報告数 1.17）の報告があり、前年 372 例（15.50）よりも減少した。

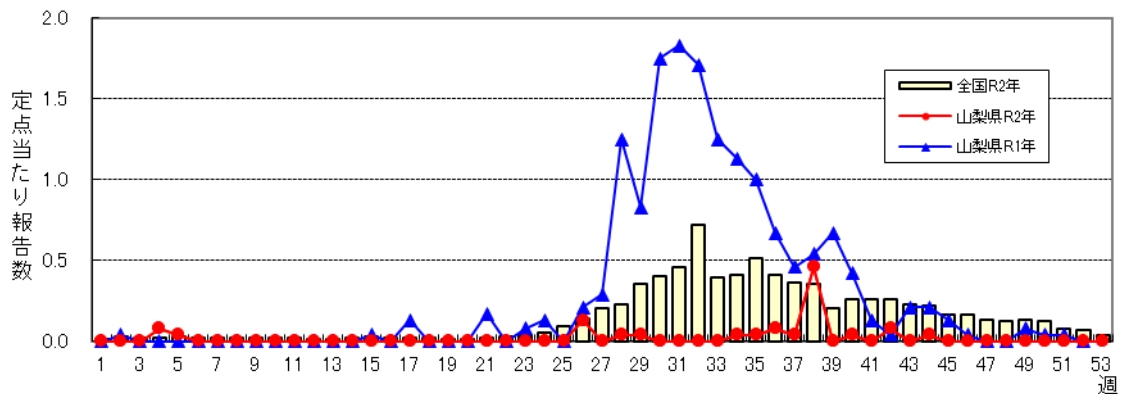
最近 5 年間は全国と同様に推移している。



### 《週別発生状況》

年間を通して断続的に報告があり、第 38 週（0.46）の報告数が最も多かった。全国では第 32 週（0.72）をピークとする夏季の小流行がみられた。

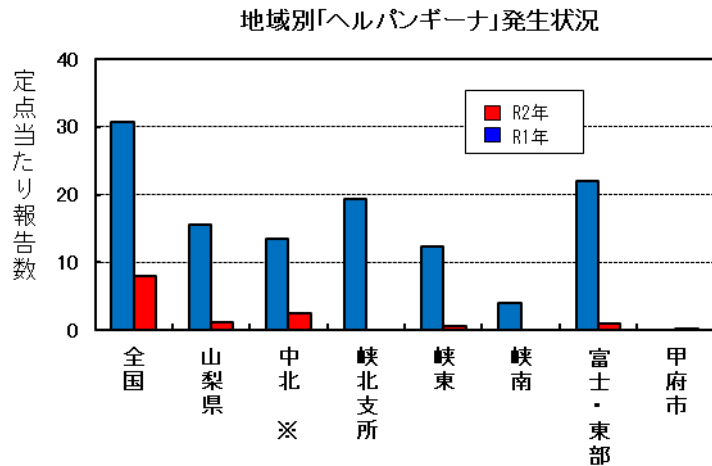
週別「ヘルパンギーナ」発生状況



### 《地域別発生状況》

報告数が最も多かったのは中北保健所管内※（2.50）であった。

峡南保健所管内の報告はなかった。

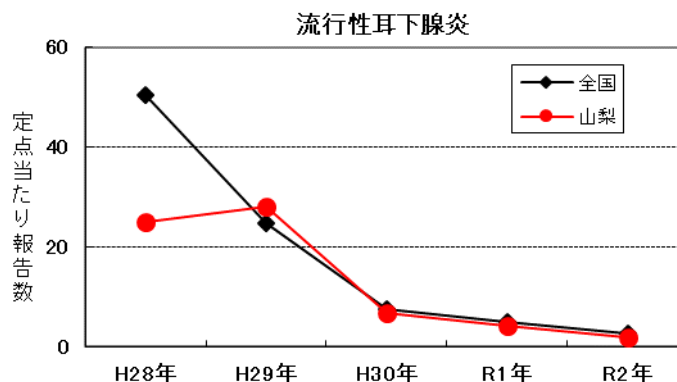


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## ○ 流行性耳下腺炎

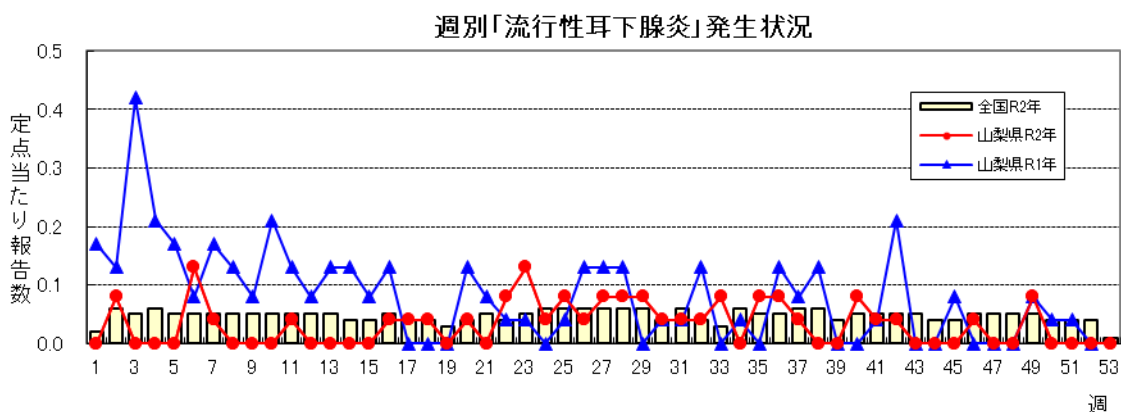
定点医療機関から43例（定点当たり報告数1.79）の報告があり、前年101例（4.21）よりも減少した。

近年は全国と同様、減少傾向で推移している。



### 《週別発生状況》

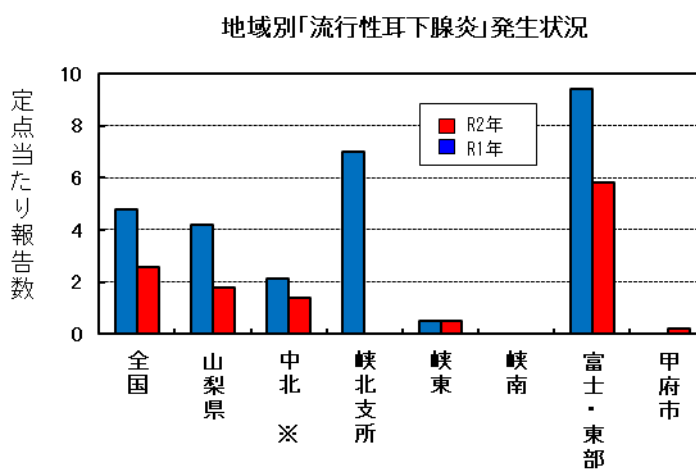
年間を通して報告があったが大きな流行はみられず、全国とほぼ同様の推移であった。



### 《地域別発生状況》

報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（5.80）で、県内報告数の半数以上を占めた。

峡南保健所管内の報告はなかった。



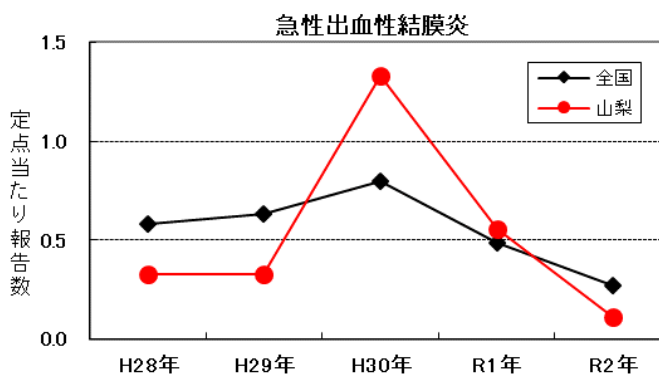
※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## 2-3 眼科定点から報告された感染症

県内9カ所の眼科定点から、対象疾病である急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎について週報として報告される。報告された総数は173例であった。

### ○ 急性出血性結膜炎

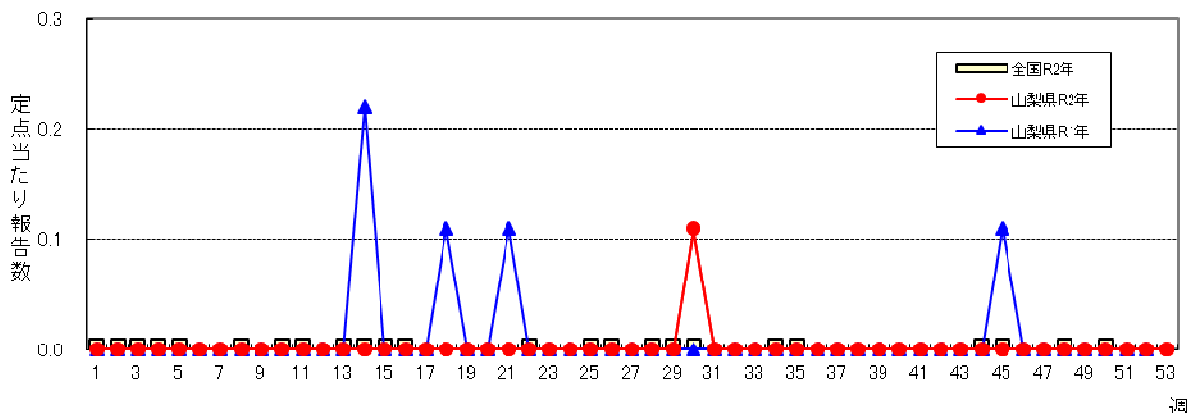
定点医療機関から1例（定点当たり報告数0.11）の報告があり、前年5例（0.56）よりも減少した。



### 《週別発生状況》

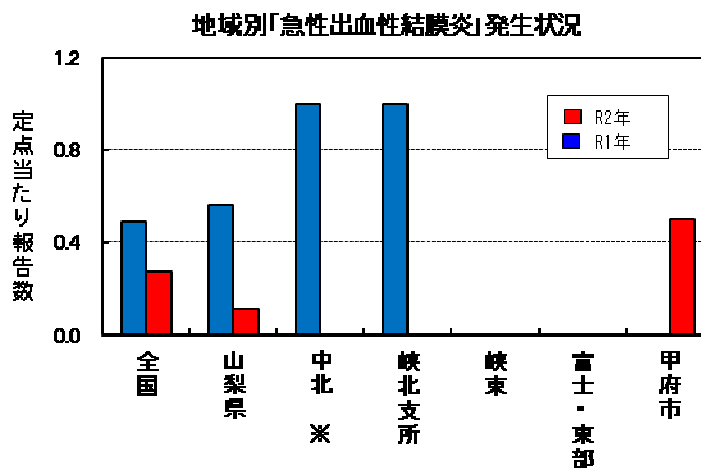
第30週に1例(0.11)の報告があった。全国でも年間を通して少ない報告数であった。

週別「急性出血性結膜炎」発生状況



### 《地域別発生状況》

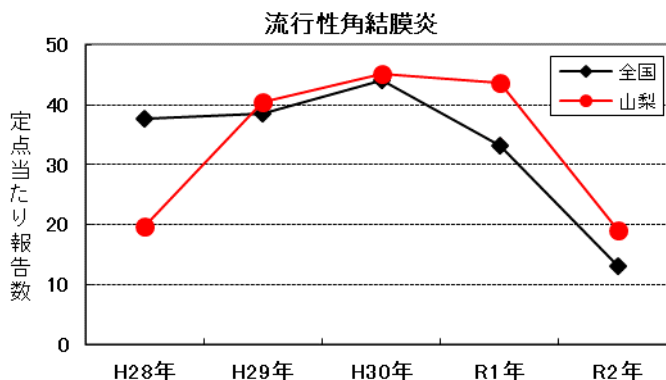
報告があったのは甲府市保健所管内※（0.50）のみであった。  
（峡南保健所管内には定点の指定なし）



※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

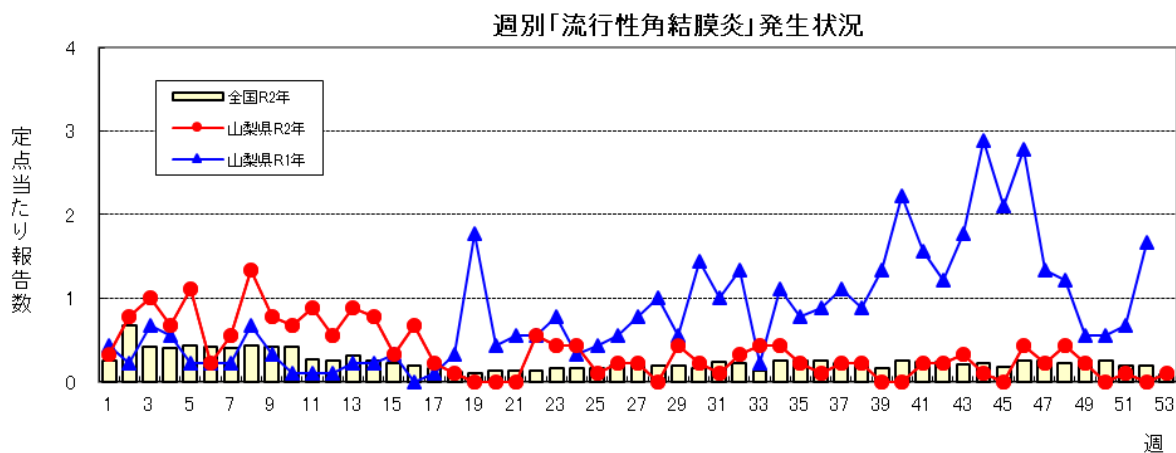
## ○ 流行性角結膜炎

定点医療機関から172例（定点当たり報告数 19.11）の報告があり、前年392例（43.56）よりも減少した。



### 《週別発生状況》

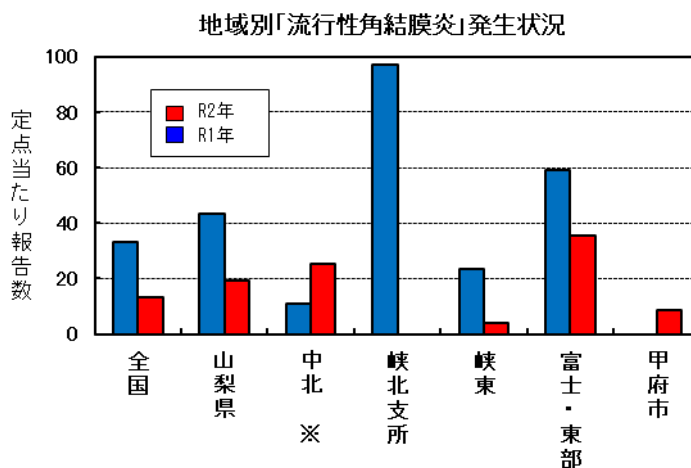
年間を通して報告があったが、第8週（1.33）が最も多かった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（35.50）であった。

（峡南保健所管内には定点の指定なし）



※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

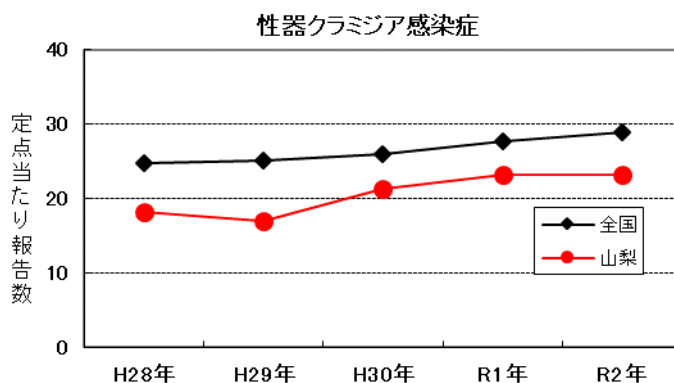
## 2-4 性感染症定点から報告された感染症

県内9カ所の性感染症（STD）定点から、対象疾病である性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症について月報として報告される。令和2年に報告された総数は370例で、前年（369例）よりも1例増加した。

### ○ 性器クラミジア感染症

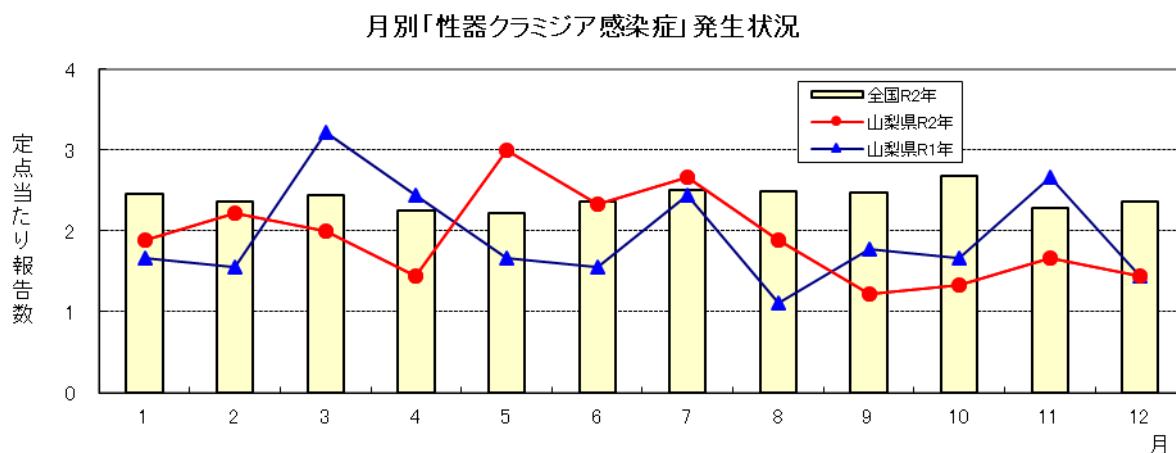
定点医療機関から208例（定点当たり報告数23.11）の報告があり、前年209例（23.22）より1例減少した。

最近5年間は、やや増加傾向で推移している。



### 《月別報告数》

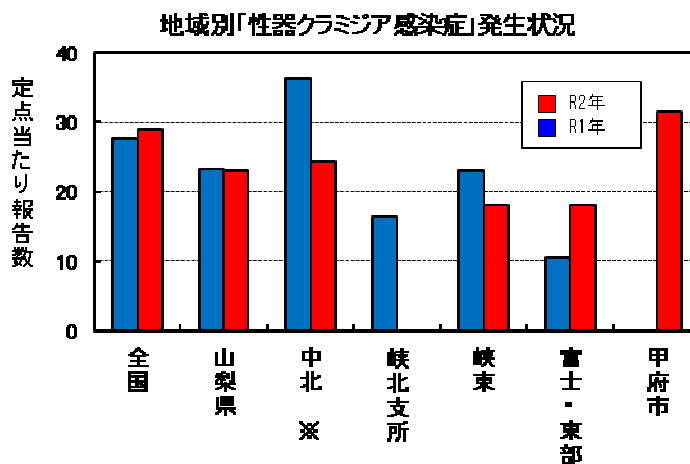
毎月報告があり、5月（3.00）の報告数が最も多かった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（31.50）であった。

（峡南保健所管内には定点の指定なし）

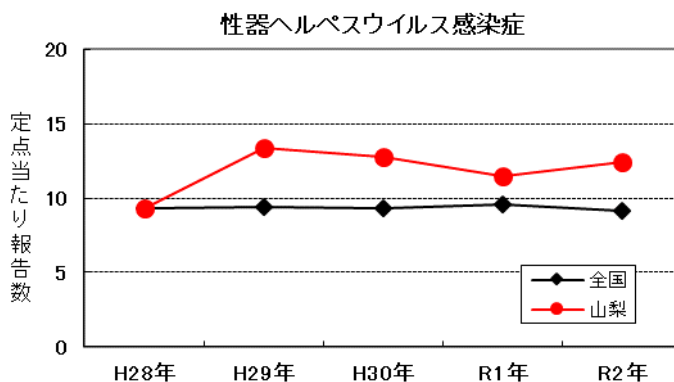


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## ○ 性器ヘルペスウイルス感染症

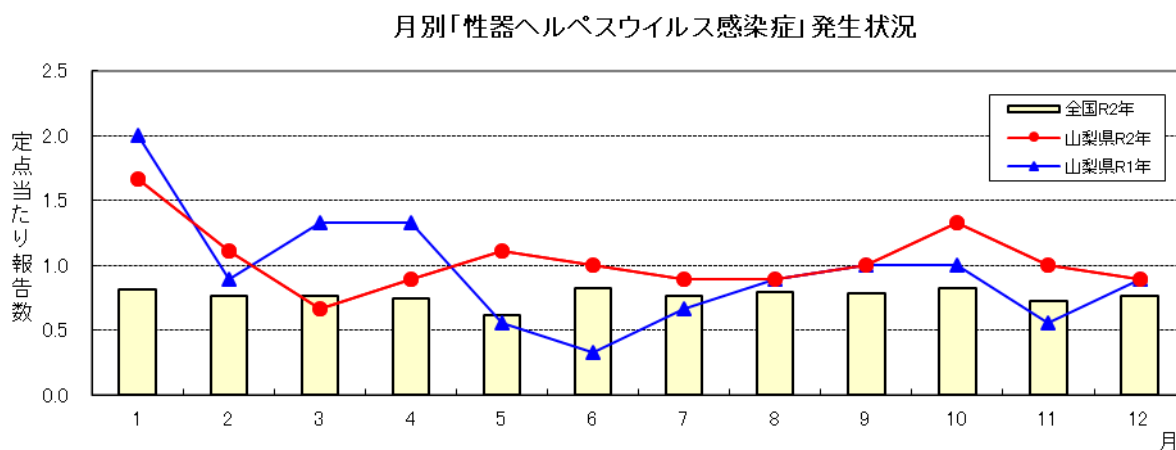
定点医療機関から 112 例（定点当たり報告数 12.44）の報告があり、前年 103 例（11.44）よりやや増加した。

最近 5 年間はほぼ横ばいに推移している。



### 《月別発生状況》

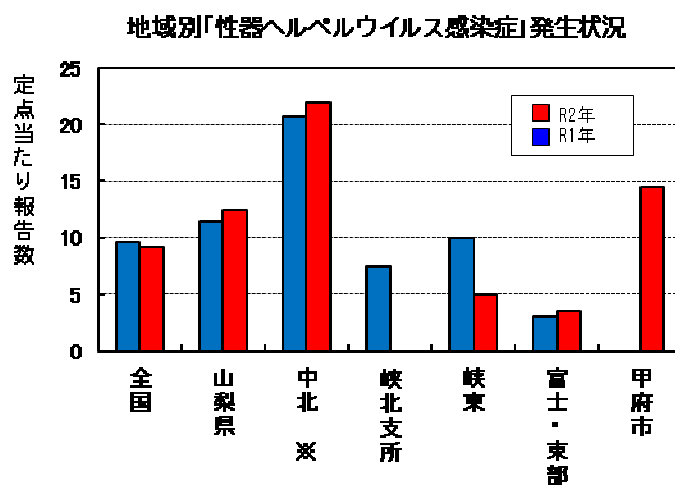
毎月報告があったが、1月（1.67）の報告数が最も多かった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内\*（22.00）であった。

（峡南保健所管内には定点の指定なし）

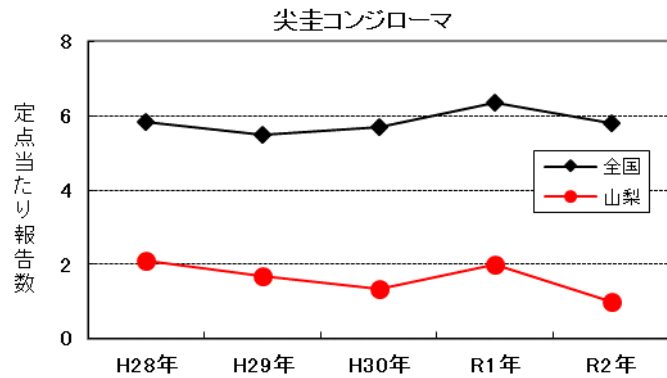


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## ○ 尖圭コンジローマ

定点医療機関から 9 例（定点当たり報告数 1.00）の報告があり、前年 18 例（2.00）よりも減少した。

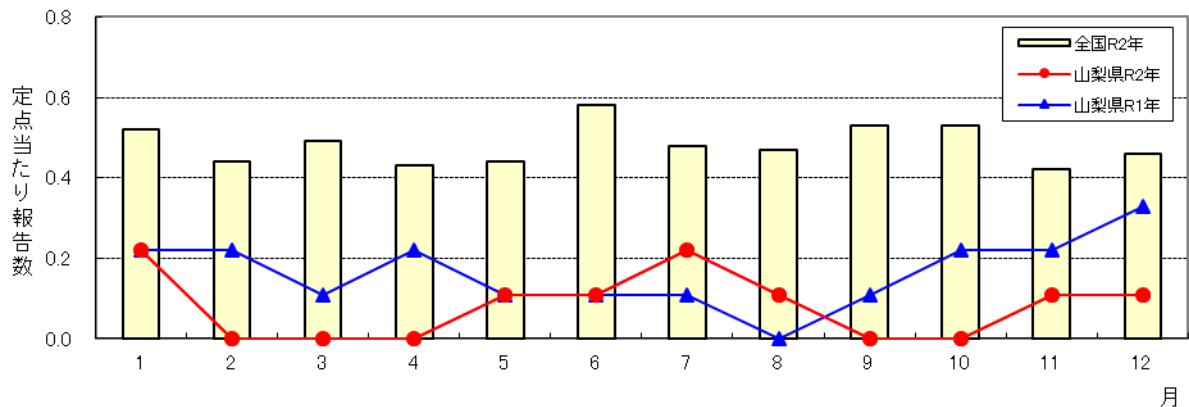
最近 5 年間はほぼ横ばい傾向で推移している。



### 《月別発生状況》

1 月、7 月に各 2 例、5 月、6 月、8 月、11 月、12 月に各 1 例の患者報告があり、全ての月で全国を下回った。

月別「尖圭コンジローマ」発生状況

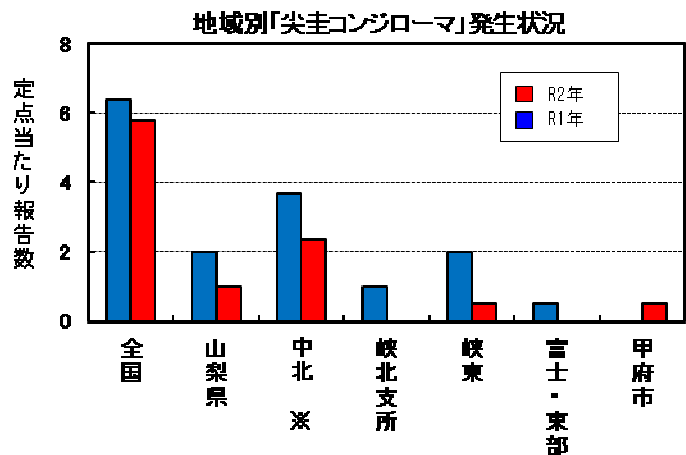


### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内※（2.33）であった。

富士・東部保健所管内の報告は無かった。

（峡南保健所管内には定点の指定なし）



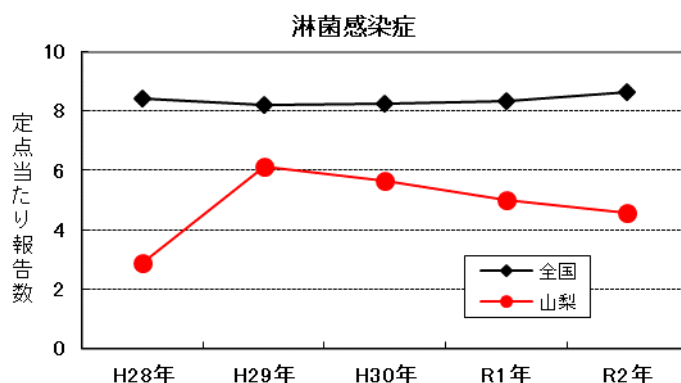
※ R1 年の甲府市保健所分、R2 年の峡北支所分を含む



## ○ 淋菌感染症

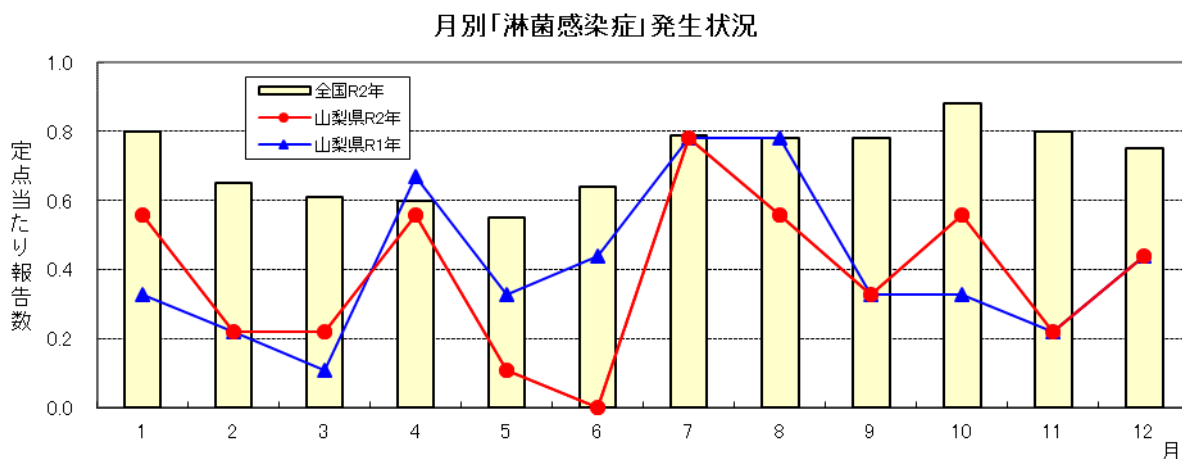
定点医療機関から 41 例（定点当たり報告数 4.56）の報告があり、前年 45 例（5.00）よりもやや減少した。

全国ではほぼ横ばい傾向に推移している。



### 《月別発生状況》

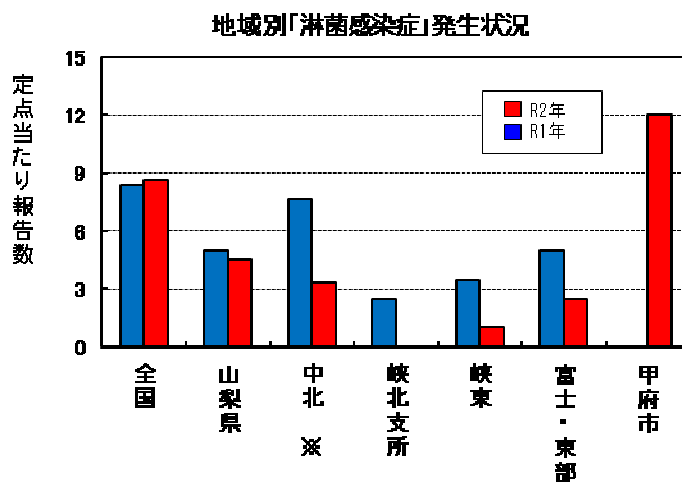
6月を除き年間を通して毎月報告があり、7月（0.78）が最も多かった。



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（12.00）で、県内報告数の半数以上を占めた。

（峡南保健所管内には定点の指定なし）



※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## 2-5 基幹定点から報告された感染症

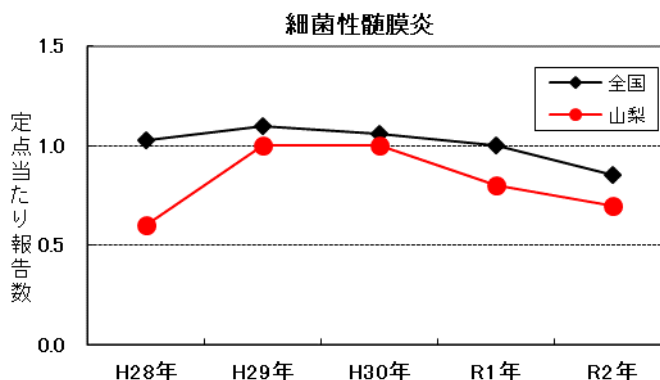
県内 10 カ所の基幹定点から、対象疾病である細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とした場合を除く。）、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く。）及び感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるもの。）は週報として、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症は月報として報告される。

基幹定点から報告された総数は 240 例（定点当たり報告数 24.00）で、報告数が多かったのは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 162 例、マイコプラズマ肺炎 55 例であった。

## ○ 細菌性髄膜炎

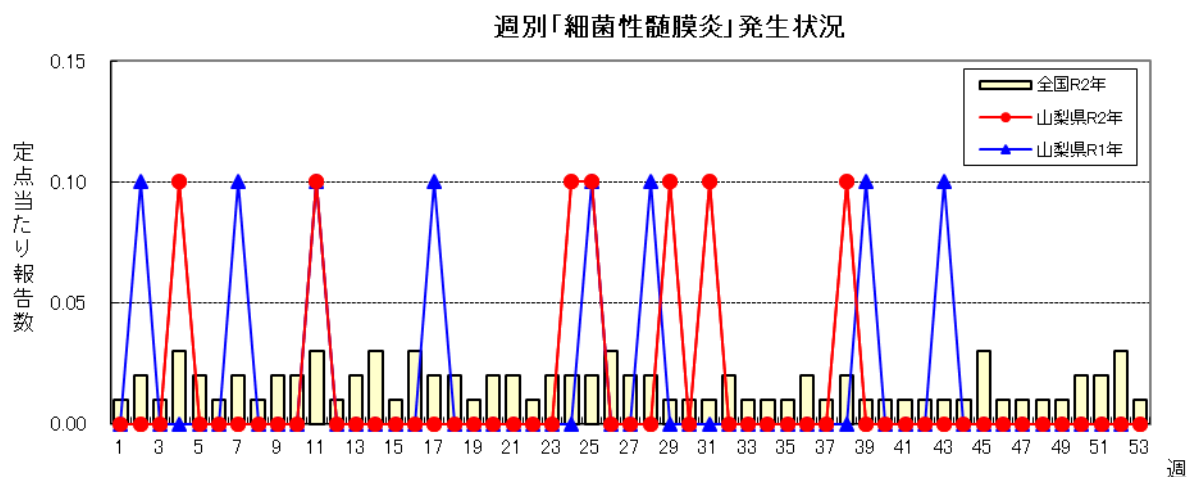
定点医療機関から7例（定点当たり報告数 0.70）の報告があり、前年8例（0.80）より1例減少した。

近年は全国と同様に、やや減少傾向で推移している。



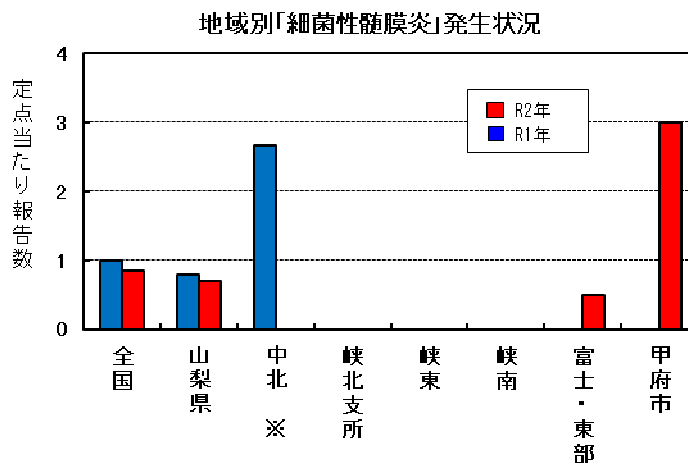
### 《週別発生状況》

第4週、11週、24週、25週、29週、31週、38週に各1例の報告があった。



### 《地域別発生状況》

報告があったのは、富士・東部保健所管内（0.50）、甲府市保健所管内管内（3.00）であった。

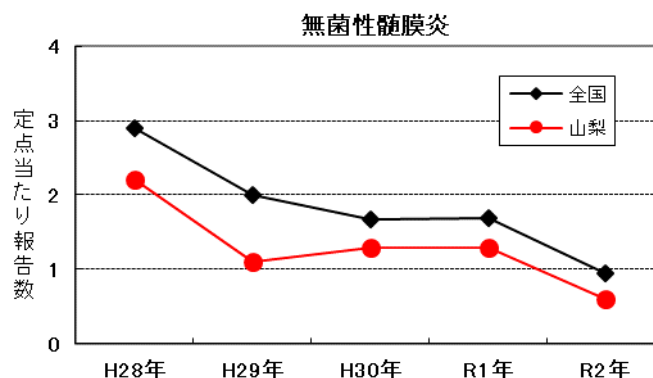


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## ○ 無菌性髄膜炎

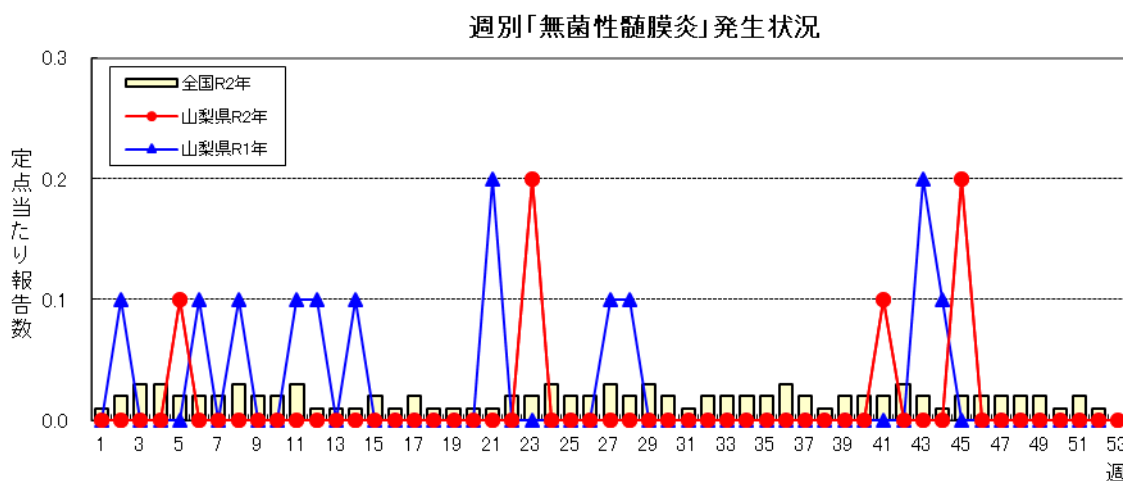
定点医療機関から 6 例（定点当たり報告数 0.60）の報告があり、前年 13 例(1.30)よりも減少した。

最近 5 年間は全国と同様、減少傾向で推移している。



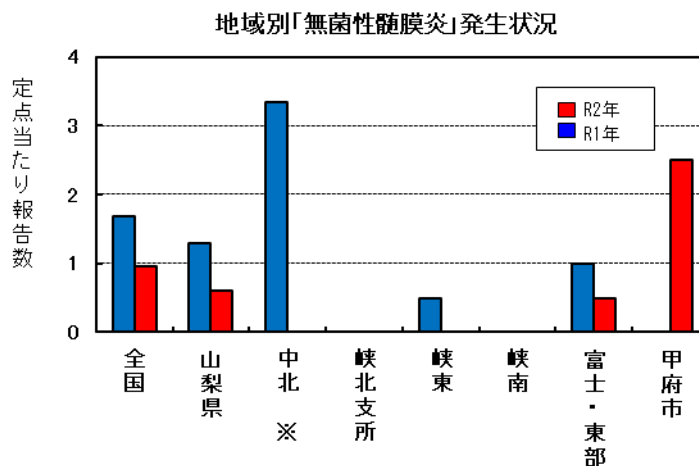
### 《週別発生状況》

第 5 週、41 週に各 1 例、第 23 週、45 週に各 2 例の報告があった。



### 《地域別発生状況》

報告があったのは、富士・東部保健所管内（0.50）、甲府市保健所管内管内（2.50）であった

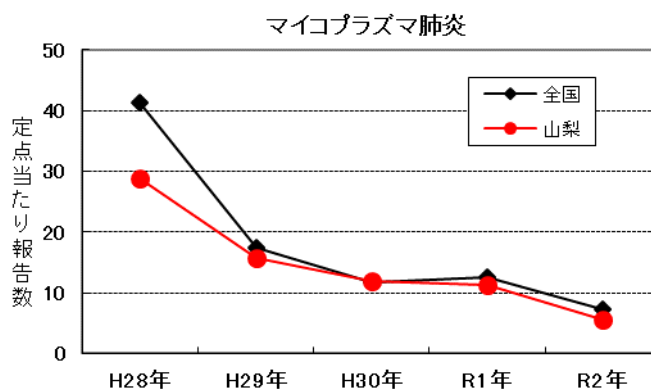


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## ○ マイコプラズマ肺炎

定点医療機関から 55 例（定点当たり報告数 5.50）の報告があり、前年 112 例（11.20）より減少した。

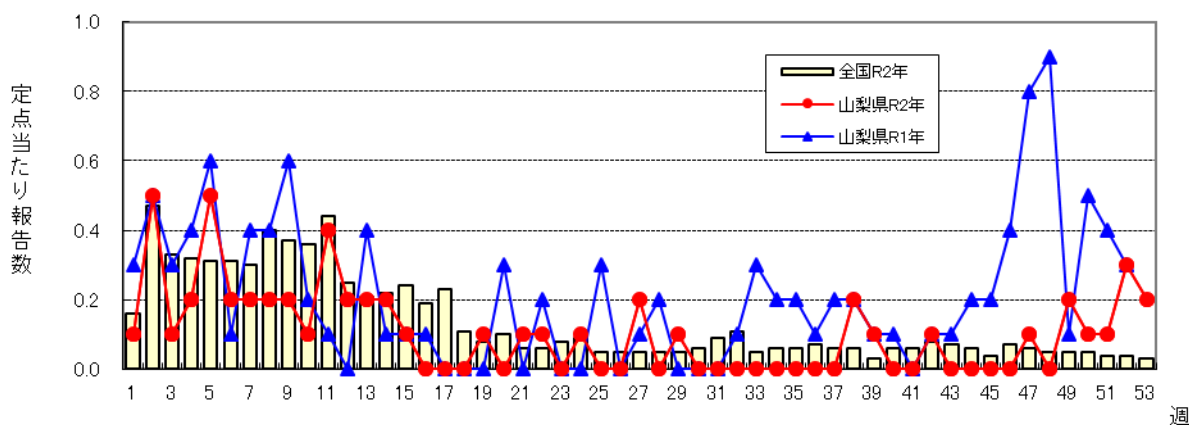
最近 5 年間は全国と同様、減少傾向で推移している。



### 《週別発生状況》

年間を通して報告があったが、第 1 週から 15 週までは毎週報告があった。第 2 週、5 週には各 5 例の報告があり、最も多かった。

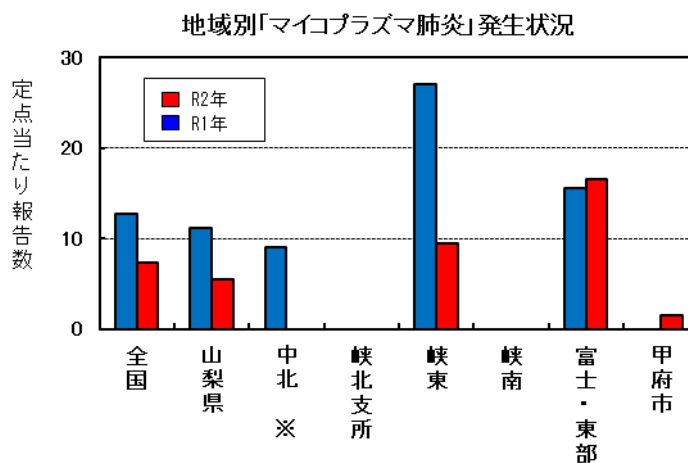
週別「マイコプラズマ肺炎」発生状況



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数は富士・東部峡東保健所管内（16.50）が最も多かった。

中北保健所管内※、峡南保健所管内の報告は無かった。

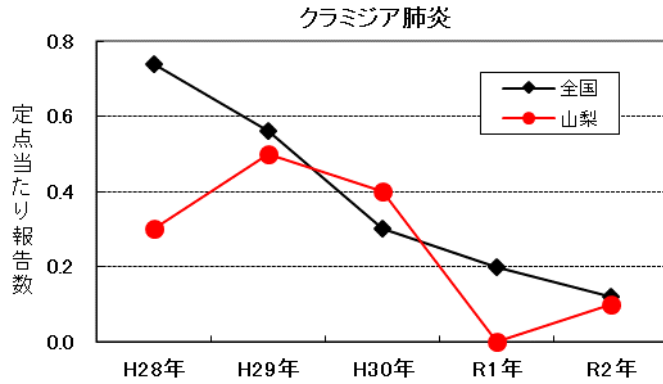


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

○ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

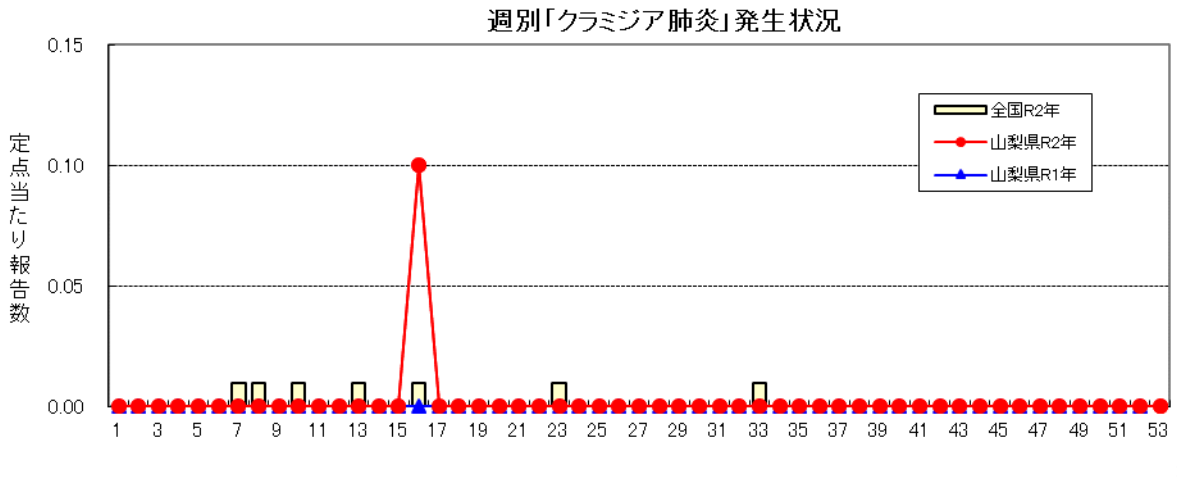
定点医療機関から1例（定点当たり報告数0.10）の報告があり、前年よりも1例増加した。

近年では全国と同様、減少傾向で推移している。



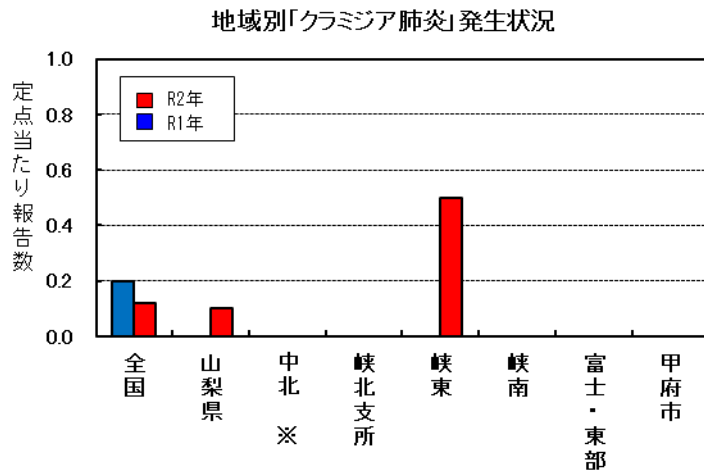
《週別発生状況》

第16週に1例の報告があった。



《地域別発生状況》

報告があったのは峡東保健所（0.50）のみであった。

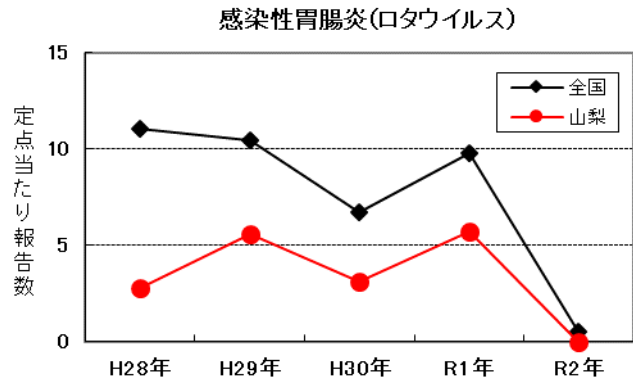


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

○ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

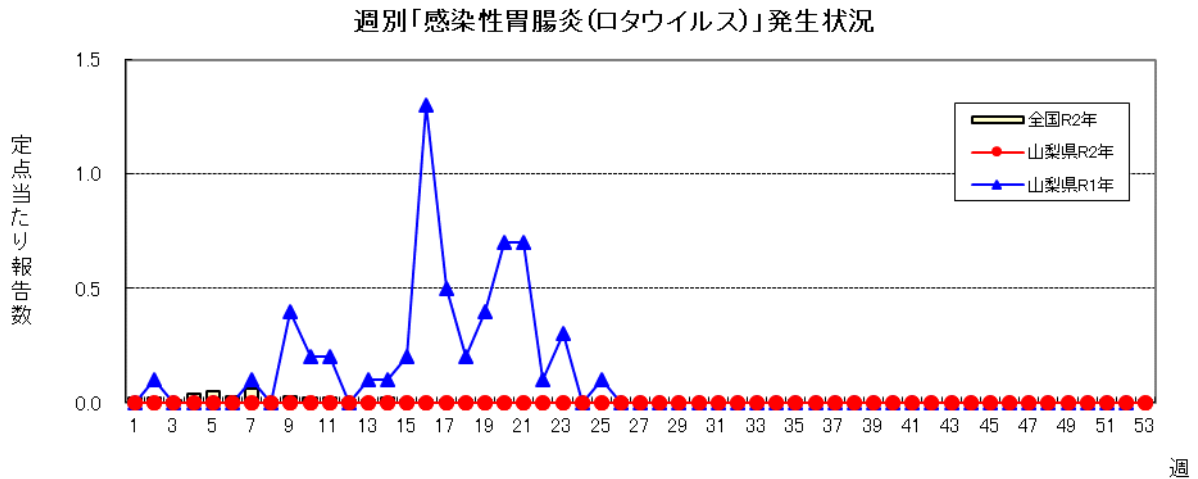
定点医療機関からの報告は無く、前年 57 例 (5.70) よりも減少した。

最近 5 年間は全国よりも少ない報告数で同様に推移している。



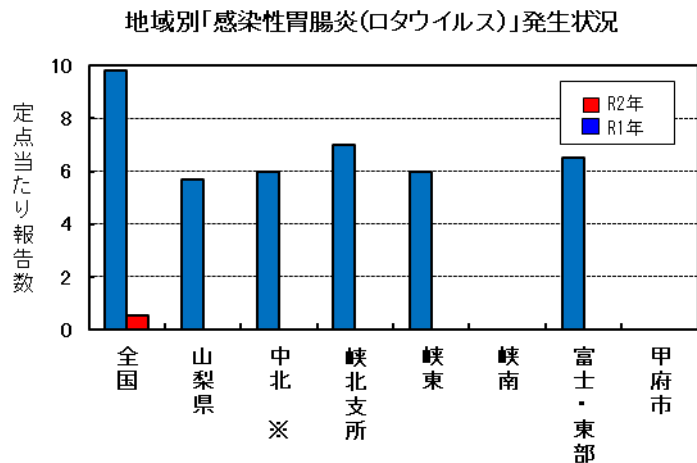
《週別発生状況》

定点医療機関からの報告は無かった。



《地域別発生状況》

全ての保健所管内で報告は無かった。

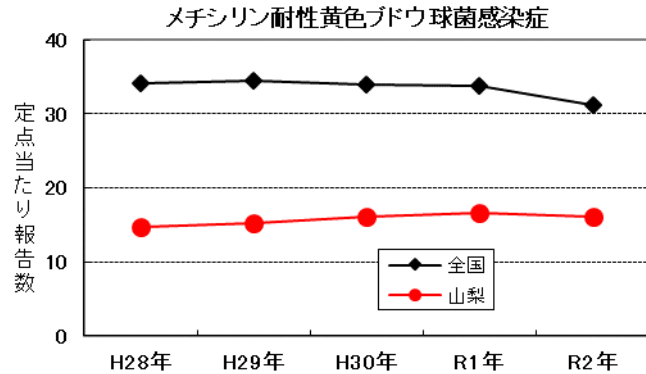


※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

## ○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

定点医療機関から 162 例（定点当たり報告数 16.20）の報告があり、前年 168 例（16.80）よりもわずかに減少した。

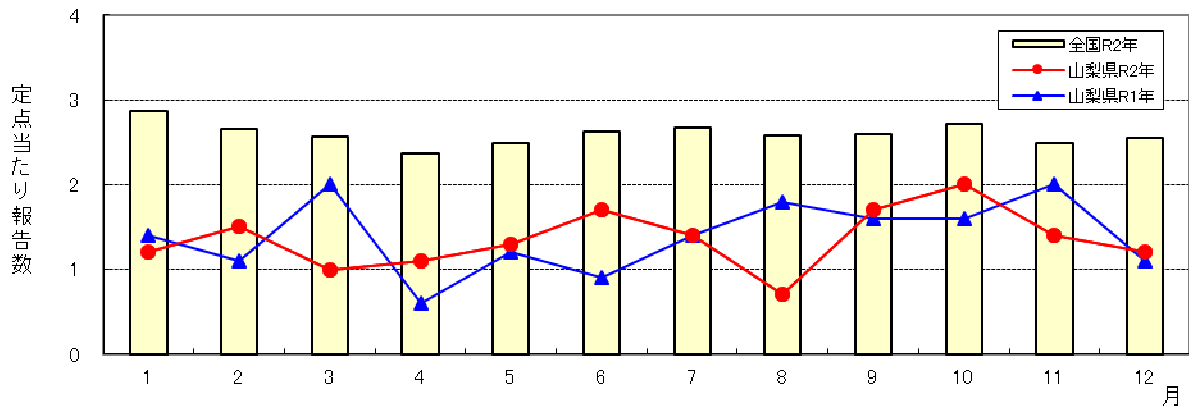
最近 5 年間は定点報告数が全国より少ない状況で、横ばいに推移している。



### 《月別発生状況》

年間を通して報告があったが、全国よりも少ない報告数であった。

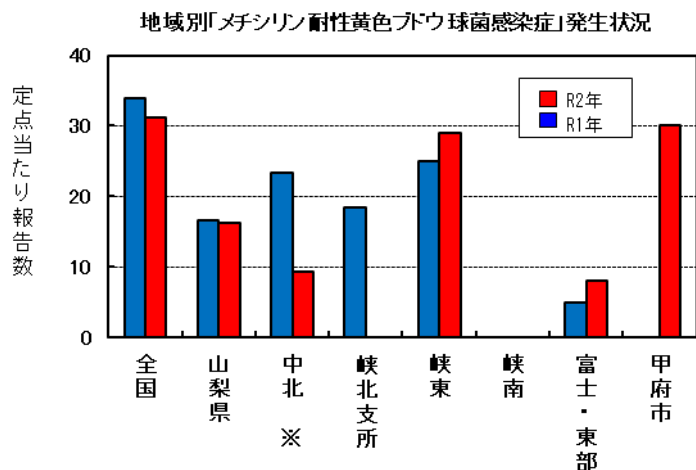
月別「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症」発生状況



### 《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（30.00）であった。

前年と同様に峡南保健所管内の報告は無かった。



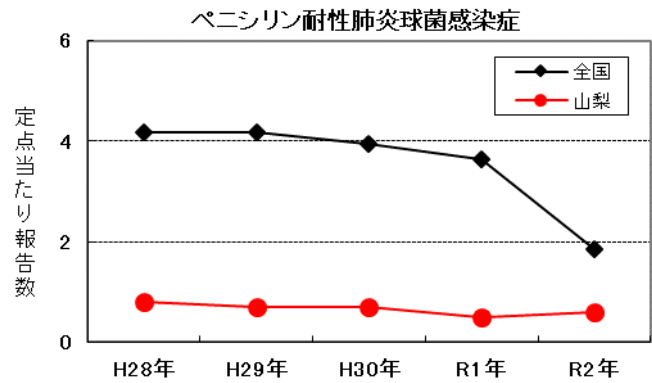
※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む



## ○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

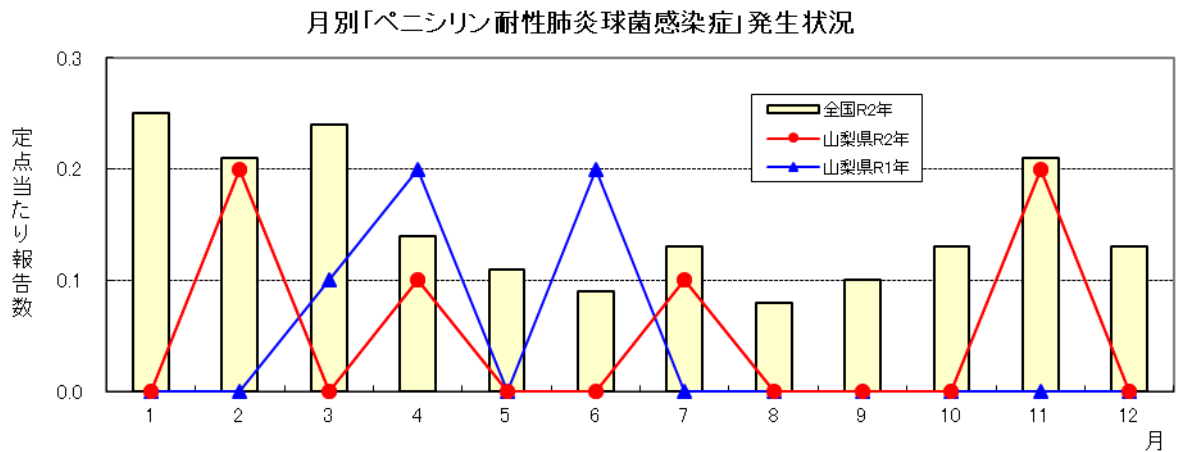
定点医療機関から6例（定点当たり報告数 0.60）の報告があり、前年5例（0.50）よりも1例増加した。

最近5年間は、定点報告数が全国より少ない状況で、横ばいに推移している。



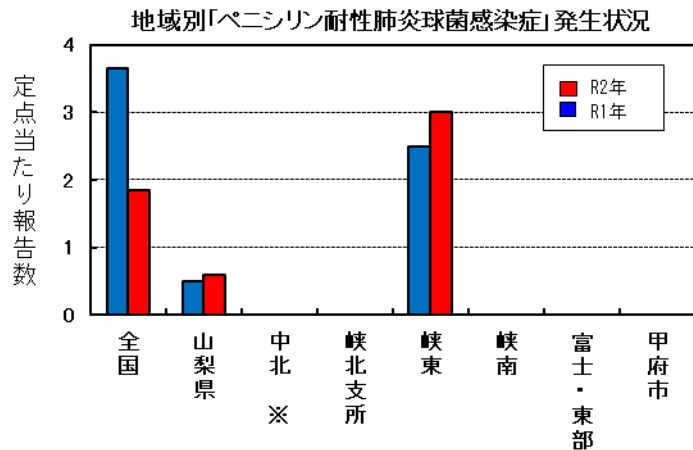
### 《月別発生状況》

4月、7月に各1例、2月、11月に各2例の報告があった。



### 《地域別発生状況》

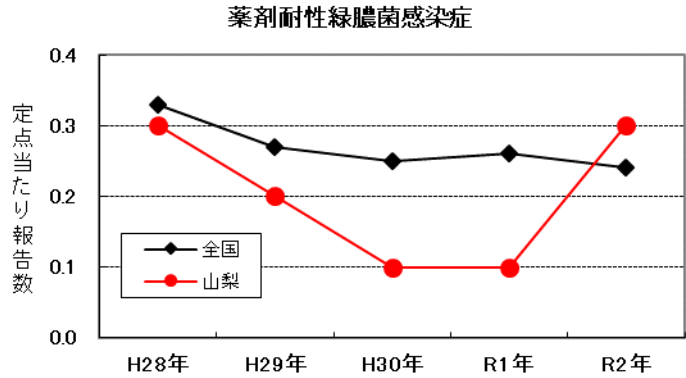
報告例は前年と同様、峡東保健所管内(3.00)のみであった。



※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

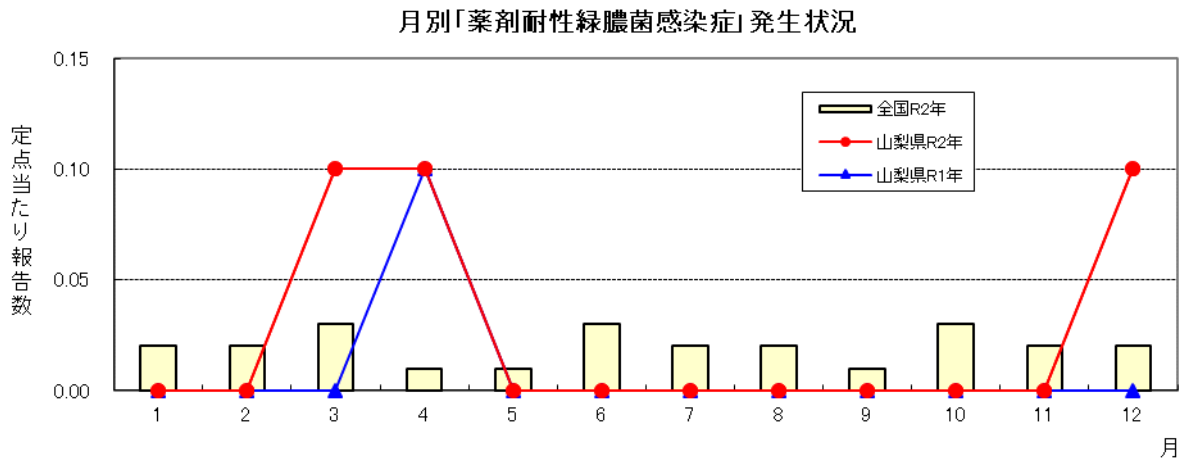
## ○ 薬剤耐性緑膿菌感染症

定点医療機関から3例(定点当たり報告数 0.30)の報告があった。前年1例(0.10)よりも増加し、全国を上回った。



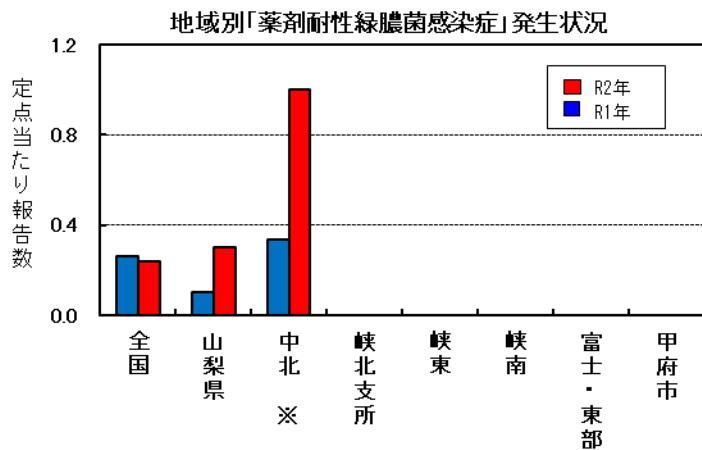
### 《月別発生状況》

3月、4月、12月に各1例の報告があった。



### 《地域別発生状況》

報告があったのは中北保健所管内※(1.00)のみであった。



※ R1年の甲府市保健所分、R2年の峡北支所分を含む

### Ⅲ 病原微生物檢出狀況



## 1 ウイルス検出状況

県内 19 カ所の病原体定点（医療機関）及び県内での集団発生事例において採取された 259 検体について PCR 法と細胞分離法により検査を実施し、135 件（52.1%）のウイルスを検出した（新型コロナウイルスを除く）。

最も多く検出されたのはノロウイルス 70 件で全体の 27.0%を占めた。他にインフルエンザウイルス 59 件（22.8%）、アデノウイルス 5 件（1.9%）、ヒトヘルペスウイルス 1 件（0.4%）が検出された。

インフルエンザウイルスの型別検出状況は、1 月から 3 月に A(H1)pdm09 37 件（14.3%）、B 型ビクトリア系統 22 件（8.5%）が検出され、2019/2020 後半の主流であったと推定された。2020/2021 シーズン前半にはインフルエンザウイルスは検出されなかった。

検出されたノロウイルスの型別は、全てノロウイルス GII であった。また、集団発生事例から検出されたノロウイルスの遺伝子型別結果は別表のとおりであった。

### 月別ウイルス検出状況

検出ウイルス	検出月	検出月												計	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザウイルス <sup>(*)</sup>	A(H1)pdm09	26	9	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
	B型ビクトリア系統	2	12	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
アデノウイルス <sup>(*)</sup>	53型	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	3
	54型	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ヒトヘルペスウイルス <sup>(*)</sup>	6型 VariantB	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
ノロウイルス <sup>(*)</sup>	G II	18	13	16	5	-	-	-	-	-	-	-	-	18	70
計		46	36	27	5	0	0	0	2	0	1	0	18	135	

(\*)PCR法で遺伝子検出 (\*2)リアルタイムPCR法で遺伝子検出

### 集団発生事例におけるノロウイルス遺伝子型別結果

検出年	検出月	事例数	遺伝子型
2020年	1月	1	G II.2
		1	G II.6
		1	G II.4 2012変異株
2020年	2月	1	G II.2
		1	G II.17
		1	G II.4 2012変異株
2020年	3月	2	G II.2
		1	G II.4 2012変異株
		1	型別不可
2020年	4月	1	G II.4 2012変異株
2020年	12月	3	G II.4 2012変異株

## 2 細菌検出状況

三類感染症の患者から分離された菌株について、同定試験、血清型及び毒素型検査を実施したところ、次のとおりであった。

検出月	疾病名	検出菌	検出数
1月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O26:H11 (Stx1)	1
		EHEC O157:H7 (Stx2)	1
7月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O157:H7 (Stx1,2)	2
8月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O157:H7 (Stx1,2)	4
		EHEC O157:H7 (Stx2)	1
		EHEC O157:HNM (Stx1,2)	2
10月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O157:H7 (Stx1,2)	1

EHEC : 腸管出血性大腸菌

## IV 參考資料





1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧

令和2年4月1日現在

	患者定点							病原体定点				医療機関名称	主たる診療科	郵便番号	住所
	小	内	イ	眼	S	基	疑	イ指	小	眼	基				
甲府	○		○						○			隈部小児科医院	小	400-0855	甲府市中小河原1-14-3
	○		○						○			今井小児科	小	400-0854	甲府市中小河原町1589
	○		○						○			小松小児科医院	小	400-0062	甲府市池田1-11-7
	○		○									いいじまこどもクリニック	小	400-0058	甲府市宮原町2003
	○		○									内科小児科横田医院	小	400-0041	甲府市上石田2-30-44
		○	○									竹居医院	内	400-0007	甲府市美咲1-11-15
		○	○									桜林内科消化器科医院	内	400-0058	甲府市宮原町1336-1
		○	○									内科小児科小野医院	内	400-0065	甲府市貢川2-2-11
		○	○									井上内科小児科医院	内	400-0025	甲府市朝日1-4-12
				○							○	佐々木眼科医院	眼	400-0031	甲府市丸の内2-25-8
				○								二宮眼科医院	眼	400-0008	甲府市緑が丘1-5-14
					○							梶山クリニック	産・婦	400-0047	甲府市德行1-3-20
					○							鈴木泌尿器科医院	泌	400-0026	甲府市塩部1-11-12
						○	○				○	市立甲府病院	他	400-0832	甲府市増坪町366
						○	○				○	地方独立行政法人山梨県病院機構 山梨県立中央病院	他	400-8506	甲府市富士見1-1-1
	5	4	9	2	2	2	2	1	2	1	2				
中北	○		○									中島医院	小	400-0105	甲斐市下今井88-1
	○		○									森川医院	小	409-3863	中巨摩郡昭和町河東中島1903
	○		○									西野内科医院	小	409-3845	中央市山之神2389-1
	○		○						○			三井医院	小	407-0024	韮崎市本町1-11-8
	○		○									にこにこクリニック こでら小児科	小	407-0033	韮崎市龍岡町下條南割1045
	○		○									高畑内科小児科医院	小	400-0422	南アルプス市飯野2753
	○		○									アルプスこどもクリニック	小	400-0304	南アルプス市吉田864-1
	○		○									いづかこどもクリニック	小	408-0034	北杜市長坂町大八田3874-1
		○	○									竜王共立診療所	内	400-0113	甲斐市富竹新田231-1
		○	○									大沢医院	内	400-0125	甲斐市長塚115-11
		○	○									北杜市立白州診療所	内	408-0315	北杜市白州町白須1341
		○	○									本町クリニック	内	407-0024	韮崎市本町2-19-3
		○	○									志村内科医院	内	400-0422	南アルプス市荊沢410
				○								フルヤ眼科医院	眼	409-3841	中央市布施1990ウイビル7F
				○								千野眼科医院	眼	407-0024	韮崎市本町1-5-26
				○								堀内眼科	眼	400-0306	南アルプス市小笠原386
					○							竜王レディースクリニック	産・婦	400-0115	甲斐市篠原2199
					○							まえざわクリニック	泌	407-0015	韮崎市若宮2-14-1
					○							女性クリニック秋山医院	眼	400-0221	南アルプス市在家塚155
						○					○	山梨大学医学部附属病院	他	409-3898	中央市下河東1110
					○						巨摩共立病院	他	400-0398	南アルプス市桃園340	
					○	○					北杜市立甲陽病院	他	408-0034	北杜市長坂町大八田3954	
	8	5	13	3	3	3	1	1	0	0	3				

	患者定点						病原体定点				医療機関名称	主たる診療科	郵便番号	住所	
	小	内	イ	眼	S	基	疑	イ指	小	眼					基
峡東	○		○									篠原医院	内・小	406-0805	笛吹市御坂町栗合168
	○		○									三枝クリニック	内・小	406-0043	笛吹市石和町河内37-2
	○		○									あめみや医院	内・小	404-0046	甲州市塩山上井尻1419
	○		○						○			池田内科小児科医院	内・小	409-1300	甲州市勝沼町勝沼2961
			○	○								中央内科クリニック	内	405-0018	山梨市上神内川47
			○	○								飯島医院	内	405-0006	山梨市小原西5
			○	○								黒沢内科	内	406-0031	笛吹市石和町市部716-5
				○								古川眼科医院	眼	405-0006	山梨市小原西196-2
				○								古屋眼科	眼	406-0031	笛吹市石和町市部822-41
					○							加納岩総合病院	他	405-0018	山梨市上神内川1309
					○							長坂クリニック	産・婦	406-0033	笛吹市石和町小石と2645
					○	○					山梨厚生病院	他	405-0033	山梨市落合860	
					○						甲州リハビリテーション病院	他	406-0032	笛吹市石和町四日市場2031	
	4	3	7	2	2	2	1	1	0	0	2				
峡南	○		○					○				溝部医院	内	409-3600	西八代郡市川三郷町市川大門1235
	○		○									南部町国民健康保険診療所	内	409-2212	南巨摩郡南部町南部8050
			○	○								飯富病院	他	409-3423	南巨摩郡身延町飯富1628
						○	○					峡南医療センター企業団富士川病院	他	400-0601	南巨摩郡富士川町鯉沢340-1
	2	1	3	0	0	1	1	1	0	0	1				
富士・東部	○		○					○				吉田医院	小	403-0005	富士吉田市中曾根1-5-10
	○		○						○			武井クリニック	小	402-0025	都留市法能669
	○		○									都留市立病院	他	402-0056	都留市つる5-1-55
	○		○									つゆきこどもクリニック	小	403-0004	富士吉田市下吉田8-18-29
	○		○									いしはらクリニック	小	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津584-1
			○	○								堀田医院	内	401-0013	大月市大月1-5-20
			○	○								うえのクリニック	内	409-0126	上野原市モアしおつ3-22-5
			○	○								しまだ医院	内	403-0022	南都留郡西桂町小沼1710-1
			○	○								富士ニコニコクリニック	内	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津1287
				○								小林眼科医院	眼	403-0017	富士吉田市新西原1-7-1
				○								野村眼科医院	眼	402-0005	都留市四日市場8-6
					○							武者医院	産・婦	401-0013	大月市大月1-15-18
					○							渡辺医院	産・婦	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津1496
						○	○					富士吉田市立病院	他	403-0005	富士吉田市上吉田6530
					○	○					地方独立行政法人大月市立中央病院	他	401-0015	大月市大月町花咲1225	
	5	4	9	2	2	2	2	1	1	0	2				
合計	24	17	41	9	9	10	7	5	3	1	10				

【患者定点】

- 小：小児科定点
- 内：内科定点
- イ：インフルエンザ定点
- 眼：眼科定点
- S：性感感染症定点
- 基：基幹定点の病院
- 疑：疑似症定点

【病原体定点】

- イ指：インフルエンザ病原体定点(指定提出機関)
- 小：小児科病原体定点
- 基：基幹病原体定点
- 眼：眼科病原体定点、

## 2 全数把握対象感染症の報告数（令和2年）

疾 病	報告数		疾 病	報告数	
	全国	山梨県		全国	山梨県
<b>一類感染症</b>			ハンタウイルス肺症候群	-	-
エボラ出血熱	-	-	Bウイルス病	-	-
クリミア・コンゴ出血熱	-	-	鼻疽*1	-	-
痘そう	-	-	ブルセラ症	2	-
南米出血熱*1	-	-	ベネズエラウマ脳炎*1	-	-
ペスト	-	-	ヘンドラウイルス感染症*1	-	-
マールブルグ病	-	-	発しんチフス	-	-
ラッサ熱	-	-	ボツリヌス症	4	-
<b>二類感染症</b>			マラリア	21	-
急性灰白髄炎	-	-	野兔病	-	-
結核*1	17,745	77	ライム病	27	-
ジフテリア	-	-	リッサウイルス感染症	-	-
重症急性呼吸器症候群*2*3 (SARSコロナウイルスに限る)	-	-	リフトバレー熱*1	-	-
中東呼吸器候群*12 (MERSコロナウイルスに限る)	-	-	類鼻疽*1	1	-
鳥インフルエンザ(H5N1)*5	-	-	レジオネラ症	2,058	24
鳥インフルエンザ(H7N9)*12	-	-	レプトスピラ症	16	-
<b>三類感染症</b>			ロッキー山紅斑熱*1	-	-
コレラ*2	1	-	<b>五類感染症</b>		
細菌性赤痢*2	87	-	アメーバ赤痢	613	-
腸管出血性大腸菌感染症	3,092	8	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	246	-
腸チフス*2	21	-	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症*11	1,952	5
パラチフス*2	7	-	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)*15	34	1
<b>四類感染症</b>			急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、 ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、 ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)*3	490	4
E型肝炎	454	2	クリプトスポリジウム症	6	-
ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	154	3
A型肝炎	120	-	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	764	1
エキノコックス症	22	-	後天性免疫不全症候群	1,096	8
黄熱	-	-	ジアルジア症	28	-
オウム病	7	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症*8	253	1
オムスク出血熱*1	-	-	侵襲性髄膜炎菌感染症*8	14	-
回帰熱	15	-	侵襲性肺炎球菌感染症*8	1,655	7
キャサスル森林病*1	-	-	水痘(入院例)*11	362	3
Q熱	-	-	先天性風しん症候群	1	-
狂犬病	1	-	梅毒	5,871	6
コクシジオイデス症	6	-	播種性クリプトコックス症*11	152	1
サル痘	-	-	破傷風	105	1
ジカウイルス感染症*13	1	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-
重症熱性血小板減少症候群*7 (SFTSウイルスに限る)	78	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	136	-
腎症候性出血熱	-	-	百日咳*14	2,947	10
西部ウマ脳炎*1	-	-	風しん*4	102	-
ダニ媒介脳炎*1	-	-	麻しん*4	12	-
炭疽	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症*11	10	-
チクングニア熱*6	3	-	<b>新型インフルエンザ等感染症*5</b>		
つつが虫病	536	1	新型インフルエンザ	-	-
デング熱	45	-	再興型インフルエンザ	-	-
東部ウマ脳炎*1	-	-	<b>指定感染症</b>		
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)*10	-	-	新型コロナウイルス感染症(病原体が ベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令 和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機 関に対して、人に伝染する能力を有することが 新たに報告されたものに限る。)*16	※	※
ニパウイルス感染症	-	-			
日本紅斑熱	421	-			
日本脳炎	5	-			

※別途公表資料を参照ください

(2021年3月集計)

## 2-1 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の改正に伴う変更の経緯

平成19年4月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律改正に伴う変更点

\*<sup>1</sup> : 新規追加された疾病    \*<sup>2</sup> : 類型変更された疾病    \*<sup>3</sup> : 名称変更された疾病

平成20年1月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則改正に伴う変更点

\*<sup>4</sup> : 定点把握から全数把握に変更された疾病

平成20年5月12日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則改正に伴う変更点

\*<sup>5</sup> : 新規追加された疾病

平成23年2月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

\*<sup>6</sup> : 新規追加された疾病

平成25年3月4日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

\*<sup>7</sup> : 新規追加された疾病

平成25年4月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

\*<sup>8</sup> : 新規追加された疾病

平成25年5月6日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

\*<sup>9</sup> : 新規追加された疾病    \*<sup>10</sup> : 名称変更された疾病

平成26年9月19日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

\*<sup>11</sup> : 新規追加された疾病

平成26年11月21日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律一部改正に伴う変更点

\*<sup>12</sup> : 類型変更された疾病(施行は平成27年1月21日)

平成28年3月30日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

\*<sup>13</sup> : 新規追加された疾病

平成29年12月15日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律一部改正に伴う変更点

\*<sup>14</sup> : 定点把握から全数把握に変更された疾病(施行は平成30年1月1日)

平成30年3月14日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

\*<sup>15</sup> : 新規追加された疾病(施行は平成30年5月1日)

令和2年1月28日 新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令施行に伴う変更点

\*<sup>16</sup> : 新規追加された疾病(施行は令和2年2月7日)

### 3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数（令和2年）

疾 病	全 国		山 梨 県	
	報告数	定点当たり 報告数	報告数	定点当たり 報告数
RSウイルス感染症	18,097	5.74	42	1.75
咽頭結膜熱	35,125	11.14	65	2.71
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	200,223	63.52	836	34.83
感染性胃腸炎	420,039	133.26	2,445	101.88
水痘	31,768	10.08	163	6.79
手足口病	18,364	5.83	42	1.75
伝染性紅斑	18,247	5.79	86	3.58
突発性発しん	65,537	20.79	288	12.00
ヘルパンギーナ	25,292	8.02	28	1.17
流行性耳下腺炎	8,073	2.56	43	1.79
小児科定点(週報) 計	840,765	266.73	4,038	168.25
インフルエンザ	563,487	114.25	4,329	105.59
インフルエンザ定点(週報) 計	563,487	114.25	4,329	105.59
急性出血性結膜炎	185	0.27	1	0.11
流行性角結膜炎	9,081	13.09	172	19.11
眼科定点(週報) 計	9,266	13.36	173	19.22
性器クラミジア感染症	28,382	28.93	208	23.11
性器ヘルペスウイルス感染症	9,000	9.17	112	12.44
尖圭コンジローマ	5,684	5.79	9	1.00
淋菌感染症	8,473	8.64	41	4.56
STD定点(月報) 計	51,539	52.53	370	41.11
細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因 とした場合を除く)	406	0.85	7	0.70
無菌性髄膜炎	456	0.95	6	0.60
マイコプラズマ肺炎	3,520	7.36	55	5.50
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	57	0.12	1	0.10
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	250	0.52	-	-
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14,938	31.19	162	16.20
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	879	1.84	6	0.60
薬剤耐性緑膿菌感染症	115	0.24	3	0.30
基幹定点(週報、月報) 計	20,621	43.07	240	24.00

(2021年3月集計)

#### 4 前年（令和元年）との定点当たり報告数の比較

疾 病	全 国			山梨県			山梨県/全国	
	R1年 2019(A)	R2年 2020(B)	(B)/(A)	R1年 2019(C)	R2年 2020(D)	(D)/(C)	R1年 (C)/(A)	R2年 (D)/(B)
RSウイルス感染症	44.39	5.74	0.13	23.58	1.75	0.07	0.53	0.30
咽頭結膜熱	23.91	11.14	0.47	9.21	2.71	0.29	0.39	0.24
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	112.51	63.52	0.56	56.33	34.83	0.62	0.50	0.55
感染性胃腸炎	256.39	133.26	0.52	186.13	101.88	0.55	0.73	0.76
水痘	18.00	10.08	0.56	16.46	6.79	0.41	0.91	0.67
手足口病	127.54	5.83	0.05	120.88	1.75	0.01	0.95	0.30
伝染性紅斑	34.29	5.79	0.17	36.54	3.58	0.10	1.07	0.62
突発性発しん	20.44	20.79	1.02	12.33	12.00	0.97	0.60	0.58
ヘルパンギーナ	30.76	8.02	0.26	15.50	1.17	0.08	0.50	0.15
流行性耳下腺炎	4.80	2.56	0.53	4.21	1.79	0.43	0.88	0.70
小児科定点 計	673.03	266.73	0.40	481.17	168.25	0.35	0.71	0.63
インフルエンザ	379.77	114.25	0.30	340.98	105.59	0.31	0.90	0.92
インフルエンザ定点 計	379.77	114.25	0.30	340.98	105.59	0.31	0.90	0.92
急性出血性結膜炎	0.49	0.27	0.55	0.56	0.11	0.20	1.14	0.41
流行性角結膜炎	33.25	13.09	0.39	43.56	19.11	0.44	1.31	1.46
眼科定点 計	33.74	13.36	0.40	44.12	19.22	0.44	1.31	1.44
性器クラミジア感染症	27.69	28.93	1.04	23.22	23.11	1.00	0.84	0.80
性器ヘルペスウイルス 感染症	9.58	9.17	0.96	11.44	12.44	1.09	1.19	1.36
尖圭コンジローマ	6.37	5.79	0.91	2.00	1.00	0.50	0.31	0.17
淋菌感染症	8.35	8.64	1.03	5.00	4.56	0.91	0.60	0.53
STD定点 計	51.99	52.53	1.01	41.67	41.11	0.99	0.80	0.78
細菌性髄膜炎	0.95	0.85	0.89	0.80	0.70	0.88	0.84	0.82
無菌性髄膜炎	1.70	0.95	0.56	1.30	0.60	0.46	0.76	0.63
マイコプラズマ肺炎	12.69	7.36	0.58	11.20	5.50	0.49	0.88	0.75
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	0.20	0.12	0.60	-	0.10	-	-	0.83
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	9.82	0.52	0.05	5.70	-	-	0.58	-
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	33.84	31.19	0.92	16.80	16.20	0.96	0.50	0.52
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	3.65	1.84	0.50	0.50	0.60	1.20	0.14	0.33
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.26	0.24	0.92	0.10	0.30	3.00	0.38	1.25
基幹定点 計	63.11	43.07	0.68	36.40	24.00	0.66	0.58	0.56

(2021年3月集計)

## 5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移（平成28年～令和2年）

疾 病	全国					山梨県				
	H28年 2016	H29年 2017	H30年 2018	R1年 2019	R2年 2020	H28年 2016	H29年 2017	H30年 2018	R1年 2019	R2年 2020
RSウイルス感染症	33.18	44.21	38.29	44.39	5.74	23.79	26.71	24.46	23.58	1.75
咽頭結膜熱	21.38	29.23	23.46	23.91	11.14	18.00	41.67	11.29	9.21	2.71
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	116.54	116.35	113.66	112.51	63.52	113.00	120.71	84.13	56.33	34.83
感染性胃腸炎	353.87	276.19	269.63	256.39	133.26	294.63	253.67	207.79	186.13	101.88
水痘	20.72	19.06	17.60	18.00	10.08	14.96	10.63	10.75	16.46	6.79
手足口病	21.91	113.65	38.92	127.54	5.83	22.83	104.29	23.25	120.88	1.75
伝染性紅斑	16.29	3.94	15.60	34.29	5.79	22.71	2.38	18.00	36.54	3.58
突発性発しん	24.17	23.22	22.57	20.44	20.79	16.04	14.46	15.83	12.33	12.00
ヘルパンギーナ	40.99	27.26	31.50	30.76	8.02	46.13	12.71	32.71	15.50	1.17
流行性耳下腺炎	50.38	24.67	7.51	4.80	2.56	24.83	27.92	6.75	4.21	1.79
小児科定点 計	699.43	677.78	578.74	673.03	266.73	596.92	615.15	434.96	481.17	168.25
インフルエンザ	354.58	326.66	384.40	379.77	114.25	364.30	299.68	383.80	340.98	105.59
インフルエンザ定点 計	354.58	326.66	384.40	379.77	114.25	364.30	299.68	383.80	340.98	105.59
急性出血性結膜炎	0.58	0.63	0.80	0.49	0.27	0.33	0.33	1.33	0.56	0.11
流行性角結膜炎	37.72	38.47	44.01	33.25	13.09	19.67	40.33	45.22	43.56	19.11
眼科定点 計	38.30	39.10	44.81	33.74	13.36	20.00	40.66	46.55	44.12	19.22
性器クラミジア感染症	24.77	25.13	25.88	27.69	28.93	18.22	17.00	21.22	23.22	23.11
性器ヘルペスウイルス 感染症	9.31	9.42	9.28	9.58	9.17	9.33	13.33	12.78	11.44	12.44
尖圭コンジローマ	5.82	5.50	5.70	6.37	5.79	2.11	1.67	1.33	2.00	1.00
淋菌感染症	8.42	8.21	8.26	8.35	8.64	2.89	6.11	5.67	5.00	4.56
STD定点 計	48.32	48.26	49.12	51.99	52.53	32.55	38.11	41.00	41.67	41.11
細菌性髄膜炎	1.03	1.01	1.05	0.95	0.85	0.60	1.00	1.00	0.80	0.70
無菌性髄膜炎	2.89	2.00	1.68	1.70	0.95	2.20	1.10	1.30	1.30	0.60
マイコプラズマ肺炎	41.34	17.54	11.66	12.69	7.36	28.80	15.80	12.00	11.20	5.50
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	0.74	0.55	0.30	0.20	0.12	0.30	0.50	0.40	-	0.10
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	11.04	10.46	6.74	9.82	0.52	2.80	5.60	3.10	5.70	-
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	34.11	34.55	33.91	33.84	31.19	14.90	15.20	16.10	16.80	16.20
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	4.21	4.18	3.94	3.65	1.84	0.80	0.70	0.70	0.50	0.60
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.33	0.27	0.25	0.26	0.24	0.30	0.20	0.10	0.10	0.30
基幹定点 計	95.69	70.56	59.53	63.11	43.07	50.70	40.10	34.70	36.40	24.00

(2021年3月集計)

## 6 感染症発生動向調査の調査報告週対応表

令和2年

週	調査週間	週	調査週間	週	調査週間
1	12/30 ~ 1/5	19	5/4 ~ 5/10	37	9/7 ~ 9/13
2	1/6 ~ 1/12	20	5/11 ~ 5/17	38	9/14 ~ 9/20
3	1/13 ~ 1/19	21	5/18 ~ 5/24	39	9/21 ~ 9/27
4	1/20 ~ 1/26	22	5/25 ~ 5/31	40	9/28 ~ 10/4
5	1/27 ~ 2/2	23	6/1 ~ 6/7	41	10/5 ~ 10/11
6	2/3 ~ 2/9	24	6/8 ~ 6/14	42	10/12 ~ 10/18
7	2/10 ~ 2/16	25	6/15 ~ 6/21	43	10/19 ~ 10/25
8	2/17 ~ 2/23	26	6/22 ~ 6/28	44	10/26 ~ 11/1
9	2/24 ~ 3/1	27	6/29 ~ 7/5	45	11/2 ~ 11/8
10	3/2 ~ 3/8	28	7/6 ~ 7/12	46	11/9 ~ 11/15
11	3/9 ~ 3/15	29	7/13 ~ 7/19	47	11/16 ~ 11/22
12	3/16 ~ 3/22	30	7/20 ~ 7/26	48	11/23 ~ 11/29
13	3/23 ~ 3/29	31	7/27 ~ 8/2	49	11/30 ~ 12/6
14	3/30 ~ 4/5	32	8/3 ~ 8/9	50	12/7 ~ 12/13
15	4/6 ~ 4/12	33	8/10 ~ 8/16	51	12/14 ~ 12/20
16	4/13 ~ 4/19	34	8/17 ~ 8/23	52	12/21 ~ 12/27
17	4/20 ~ 4/26	35	8/24 ~ 8/30	53	12/28 ~ 1/3
18	4/27 ~ 5/3	36	8/31 ~ 9/6		



## <やまなし感染症ポータルサイト>



やまなし感染症ポータルサイトでは、様々な感染症の県内発生状況をはじめ、感染症の基礎知識や予防のための注意事項などを掲載していますので、正しい知識に基づく感染防止対策の情報源としてお役立てください。

(URL) [https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho\\_portal/index.html](https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho_portal/index.html)

感染症発生動向調査事業報告書

—令和2（2020）年版—

令和3年12月 発行

編集・発行 山梨県感染症情報センター

（山梨県知事直轄組織感染症対策グループ）

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1

電話 055-223-1321

FAX 055-223-1649

[https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho\\_portal/index.html](https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho_portal/index.html)